

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京書籍『新編 現代の国語』				
副教材等	東京書籍『新編 現代の国語 学習課題ノート』、第一学習社『新編 意味から学ぶ常用漢字』、数研出版『力をつける現代の国語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協動的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協動的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、身につけた知識・技能を活用しながら、教師の指示以外でも自ら積極的に発展的な内容に取り組んでいる。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、相手の立場を尊重しつつ自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認	・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析	・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	自己を見つめる	5 「B 書くこと」	こそめスープ	・筆者独自の考え方について理解する。 ・人それぞれが持つ意識の世界について、自分の考えをまとめて書く。 ・クラス内で読み合い、考えたことを話し合う。	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
5		4 「A 話すこと・聞くこと」	気になるニュースについて話そう	・気になるニュースを選び、複数の情報源から理解を深める。 ・収集した情報から発表の構成を考えて発表メモを作り、班でニュースを発表しあう。	4	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・発表での取組の観察
6	他者に出会う	4 「C 読むこと」	水の東西	・語彙を豊かにするとともに、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	4	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	言葉と生活1	5 「B 書くこと」	分かりやすい説明をしよう	・目的や相手にあった説明をすることの意義を理解する。 ・「自分の学校の行事を説明する」という設定で、ロールプレイを行い、相互評価表などをもとに評価点・改善点などを話し合う	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・ロールプレイでの取組の観察
7	視野を広げる	4 「C 読むこと」	無彩の色	・語彙を豊かにするとともに、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・具体例を押さえながら、灰色に対する筆者の評価とその理由を読み取る。 ・筆者の主張する灰色についての日本文化の特色、伝統色を確認しながら理解する。	4	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト

8 9		5 「A 話す こと・聞く こと」	情報を整 理しながら 話し合 おう	・話し合いには種類があること、話し合いの 進め方を工夫することの意義を確認する。 ・グループに分かれて話し合いのロールプレ イを行い、成果と課題を検討する。	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・ロールプレイでの取 組の観察
	社会と かわる	7 「B 書く こと」	鍋洗いの 日々	・筆者の体験から、筆者の必死の行動によっ て先輩の料理人たちがどのように変化したか を読み取り、まとめる。 ・今までに調べたり話を聞いたりしたこと のある職業について、仕事の苦労や喜びの体 験談を書いて発表する。	7	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
10	言葉と 生活2	5 「B 書く こと」	新聞記事 を読んで 意見文を 書こう	・「ゲーム依存」について書かれた新聞記事 を観点意識しながら通読する。 ・記事の内容を要約し、構成を考えて意見文 を書く。	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・意見文の内容の確 認
11		5 「A 話す こと・聞く こと」	相手に応 じた言葉 の選び方	・敬語の種類について学習し、役割と使いか たを理解する。 ・教科書にあげられた具体例について、ど のように言い換えたらいいかを班で話し合う。	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート
	世界と つなが る	5 「C 読む こと」	美しさの 発見	・語彙を豊かにするとともに、内容や構成、論 理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・具体例をもとに筆者が「美しさの発見」につ いてどのように考えているかを読み取る。	5	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
12		8 「B 書く こと」	りんごの ほっぺ	・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々 の状況と、筆者の思いを読み取る。 ・題名にこめられた筆者の思いについて考え たことをまとめる。 ・戦争体験を語り継いでいくことの意義につ いて意見を書く。	8	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・話し合いでの取り 組みの観察
1		6 「B 書く こと」	読み手の アドバイ スを生か して紹介 文を書こ う	・情報を収集したり、本文の構成を工夫した りして紹介文を書く。 ・書いた文章をグループ内で評価し合い、良 い点や改善点を見つける。 ・読み手の助言をもとに文章を推敲し、清書 する。	6	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・制作物の内容の確 認
2 3	未来に 目を向 ける	7 「A 話す こと・聞 くこと」	資料を活 用して発 表しよう	・発表にはさまざまな形式があり、目的や相 手に合わせて適切に選ぶ必要があることを理 解する。 ・設定したテーマをもとにグループごとに発 表活動を行う。 ・互いの発表を評価し合い、良い点や改善点 を見つける。	7	・授業の取組態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・発表での取り組み の観察

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 21 時間	B 「書くこと」 36 時間	C 「読むこと」 13 時間
-----------------	------------------------	-------------------	-------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・各月に漢字テストがあります。テスト範囲は後日配布されるプリントを参照してください。
- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることなどを目指します。

(担当 : 小竹・町田)

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	数研出版 『改訂版 新編 言語文化』				
副教材等	数研出版『改訂版新編言語文化 準拠ワーク』、第一学習社『学ぼぞ 古文と漢文 新装版』、いづな書店『みるみる覚える古文単語 300+敬語 30 三訂版』、いづな書店『みるみる覚える古文単語 300+敬語 30 三訂版準拠ノート改訂版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を、身につけた知識・技能を活用しながら、教師の指示以外でも自ら積極的に発展的な内容に取り組んでいる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	随筆	8 「B 読むこと【近代以降の文章】」	さくらさくら	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、内容の構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・教科書 16 ページ「言語活動」を行い、現代の言語文化に息づいている古典常識について理解する。	8	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
5	古文入門	3 「B 読むこと【古典】」	古典に親しむ	・現代とは仮名遣いが違うことを知る。 ・暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。	3	・授業の取り組み態度 ・振り返りシート ・単元テスト
6		9 「B 読むこと【古典】」	「宇治拾遺物語」児のそら寝	・歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。 ・古文と現代文の違いについて理解し、品詞に気をつけながら辞書の使い方について学ぶ。 ・用言の活用の種類と活用形について理解する。 ・説話のおもしろさについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。 ・「地の文と会話文」「古文と現代語訳」をリズムや調子を体感しながら音読し合う。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
7	随筆	9 「A 書くこと」	「枕草子」うつくしきもの	・歴史的仮名遣い、用言の活用の種類と活用形について理解する。 ・平安時代に生きた作者のものの見方や感じ方について、自分の考えを持つ。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題

	8	漢文入門	9 「B読むこと【古典】」	訓読の基本	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・漢文の訓読の決まりについて理解する。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	10	故事成語	10 「B読むこと【古典】」	守株 借虎威	・漢文訓読のきまりについて理解する。 ・時代背景や諸子百家について学び、この話で語られている教訓の意義を理解する。 ・「故事成語」を調べ、短文を作り発表する。	10	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	11	小説	18 「B読むこと【近代以降の文章】」	羅生門	・語彙を豊かにする。 ・下人の行動や心理を元に場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・「元になった古典と読み比べよう」で、「今昔物語集」の文章と比較して、その違いをまとめる。 ・「下人のその後」を考えて書く。	18	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題
	11	詩歌	9 「A書くこと」	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法や調べに留意しながら、作品に表れている物の見方考え方を捉え読み味わう。 ・「本歌取り」の技法を使って短歌を作り、表現されている点についてお互いに説明し合う。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題
	12	物語	9 「B読むこと【古典】」	「伊勢物語」芥川	・登場人物の行動や場面の展開を、平安時代の貴族の生活を考慮して、正確に把握する。 ・和歌を含む物語の読み取りを通して、人物の心情を読み取る。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	1	物語	8 「B読むこと【古典】」	「平家物語」木曾の最期	・軍記物語の文体の特徴や当時の武士の価値観や「名のり」「装束描写」などについて理解する。 ・古典の敬語表現について理解する。	8	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	2	漢詩	8 「B読むこと【古典】」	絶句と律詩	・漢詩の決まり、表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品の歴史的背景、文化的背景を理解する。	8	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	3	論語	5 「B読むこと【古典】」	論語	・「論語」を学ぶことによって、自己のものの見方、考え方を豊かにする。 ・孔子の考え方について理解する。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト

計105時間（50分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 18 時間	B 「読むこと」【古典】 61 時間	B 「読むこと」【近代以降の文章】 26 時間
-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

私たちの言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会にかかわるために、勉強をしながら自分との関わりの中での考え方に生かしていくことができるようがんばりましょう。

（担当：小竹・町田）

教科(科目)	国語(論理国語)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	東京書籍『新編論理国語』				
副教材等	東京書籍『新編論理国語 学習課題ノート』、第一学習社『新版意味から学ぶ常用漢字』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。
- ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。
- ③ 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。読書の意義と効用について理解を深めている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域ごとの授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	広がる風景	5 「B 読むこと」	対話とは何か	・筆者が捉える「対話」の意義を、本文の論旨をもとに読み取りまとめる。 ・「対話」と「おしゃべり」の違いを理解し、日常生活での「おしゃべり」「対話」について話し合う。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
5	考える手がかり	6 「B 読むこと」	少女たちの「ひろしま」	・筆者が美しいと感じた石内都の写真集の特徴と、「洋服たち」に対する視点を捉える。 ・被爆死した女性たちと筆者をつなぐ「回路」の意味を捉える。	6	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
6	現実の中で	11 「A 書くこと」	資料を整理し、テーマを吟味しよう	・興味、関心のある社会的な問題からテーマを設定し、資料収集を行う。 ・収集した資料を整理してまとめる。	11	・授業の取り組み態度 ・レポート ・振り返りシート
8	考える手がかり	7 「B 読むこと」	「ふしぎ」ということ	・子供の説明が「物語」に直結しているということについて理解する。 ・「自然科学」の方法と「物語」の違いについて理解する。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
9	人間と知性	7 「B 読むこと」	学ぶことと人間の知恵	・学ぶことの意義における筆者の主張を読み取る。 ・「コンピューター」と「人間」の違いについて関連する文章を読み話し合う。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
10		7 「B 読むこと」	ラップトップを抱えた「石器人」	・事実と主張の関係に注意して文章を読み取る ・「ヒューマンエラー」に対する筆者の考えを読み取り、自分の考えをまとめる。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
11	現実の中で	7 「B 読むこと」	思考の肺活量	・比喩表現に注意して内容を読み取り、「思考の原型」について理解する。 ・筆者が述べる「思考」において「だいじなこと」を理解する。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト

12	ものの見 方	6 B 読むこ と」	弱肉強食は自然の 摂理か	・筆者が提示する問題や根拠に注意して読み、主張や文章構成を理解する。 ・実験結果のグラフから読み取れることを話し合う。	6	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
1 2	現実の中 で	14 「A 書くこ と」	仮説を立てて論証 しよう	・設定された課題の中で仮説を立て、情報収集を行い検証する。 ・検証過程を文章にまとめる。	14	・授業の取り組み態度 ・レポート ・振り返りシート

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 25 時間	B 「読むこと」 45 時間
-----------------	-------------------	-------------------

7 課題・提出物等

- ・単元テストの際に漢字テストも行います。テスト範囲は後日配布されるプリントを参照してください。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

この科目では、実社会において必要となる、論理的、批判的に考える力を伸ばすことに重点を置きます。そのため、論理的文章を通して、根拠や論拠の吟味を重ねたり、文章全体の論理の明晰さを確かめたりして、他者の主張や考えを的確に理解するとともに、自らの主張や考えについても、相手に受け入れられるよう、論拠に基づいて構築する力を育成します。

(担当：山崎・遠山)

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	東京書籍『新編古典探究』				
副教材等	東京書籍『新編古典探究 学習課題ノート』、尚文出版『学ぼぞ 古文と漢文』、 いっずな書店『Key&Point むるみる覚える古文単語 300+敬語 30 三訂版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	基本的な文法を復習しながら、説話に親しもう	『宇治拾遺物語』小野篁、広才のこと	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解する。 ・登場人物のやりとりのおもしろさをまとめ、説話の特徴を押さえる。	3	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
		『十訓抄』大江山の歌	・和歌の修辞法を理解し、和歌に関連する文化や当時の人々の思いについて考える。 ・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。	3	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	漢文の基礎を確認しながら、故事を読もう	蛇足	・故事成語について確認する。 ・本文を正しく音読し、現代語訳する。 ・先人のものの見方について理解する。	2	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
6	助動詞を学びながら、随筆を読もう	『徒然草』丹波に出雲といふ所あり	・助動詞の文法的意味を理解する。 ・主語を確認しながら、話のあらすじを読み取り、登場人物の心情の変化を読み取る。 ・この話のおもしろさはどこか考え、話し合う。	4	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	唐詩を味わおう	「勸酒」 「静夜思」 「送元二使安西」 「登高」	・唐詩の詩形、押韻を確認する。 ・正確な現代語訳をする。 ・繰り返し音読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。 ・印象に残った詩について話し合い、訳詞を試みる。	4	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題

7	敬語表現を学びながら、作り物語を読もう	『竹取物語』 富士の山	- 古文特有の語句の読みや意味を理解する。 - 敬語表現について学び、人間関係や人物について把握する。 「天の羽衣」や「富士の山」から、当時の人々のどのような思いが読み取れるか話し合う。	8	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
8 9	句形を確認しながら、史記を読もう	『項羽と劉邦』 鴻門の会	『史記』について概略を理解する。 - 語句の意味や用法を理解し、正しく現代語訳する。 - 登場人物の行動や心情を理解する。	8	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
10	日記を読みながら古典常識を学ぼう	『土佐日記』 馬のはなむけ 『更級日記』 門出	- 語句の意味や用法を理解する。 - 敬語についての理解を深める。 - 月日や時刻の呼び方等古典常識を確認する。 - 助動詞の識別を学ぶ。 - 日記文学についての理解を深める。	8	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
11	史記を読み、人物の行動や心情を理解しよう	『項羽と劉邦』 四面楚歌	- 語句の意味や用法を理解し、正しく現代語訳する。 - 登場人物の行動や心情を理解する。 - 故事成語の成り立ちを理解し、語彙を増やす。	8	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
12	寓話を読みながら、故事成語を学ぼう	寓話 「出藍誉」 「塞翁馬」	- 句法に注意して書き下し、語句を調べて現代語訳する。 - それぞれの話の教訓的な内容について理解する。 - 故事成語の意味と使われ方について理解する。	8	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
1	文体の特徴に注目して軍記物語を味わおう	『平家物語』 壇の浦の合戦	- 軍記物語の文体の特徴を味わいながら音読する。 - あらすじや場面、各人物の心情をつかむ。 『平家物語』から広がる伝統芸能について考える。	7	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 単元テスト
2	修辞を学びながら和歌を味わおう	小倉百人一首の世界	- 和歌の修辞法を理解し、正しく解釈する。 - 筆者の解釈について理解する。 - 好きな和歌一首を選んで、その歌の意味や詠まれた状況について調べ、鑑賞文を書いて発表する。	7	- 授業の取り組み態度 - ワークシート - 振り返りシート - 論述課題

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

古典に親しみながら学ぶことによって、日本文化の特徴や伝統的な言語文化を理解しましょう。そして、私たちの言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会にかかわるために、自分の思いや考えを深めていきましょう。

(担当 : 山崎 美香、町田 朋子、斎藤 太)

教科(科目)	国語(古典探究)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	東京書籍『新編古典探究』				
副教材等	東京書籍『新編古典探究 学習課題ノート』、尚文出版『学ぼぞ 古文と漢文』、浜島書店『読み解く古典2』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協動的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協動的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価規準

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認	・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析	・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	随筆を味わう	『枕草子』 「ありがたきもの」「雪のいと高う降りたるを」	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解する。 ・主語を確認しながら登場人物のやりとりのおもしろさをまとめ、随筆の特徴を理解する。	10	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
5		『古典の窓』 「枕草子のパロディ」	・古典の作品について、自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする。 ・関連する文化や当時の人々の思いについて考える。	3	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
6 7		小話を読む 「鼓腹撃壤」	・本文を正しく音読し、現代語訳する。 ・先人のものの見方について理解する。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
8 9	古詩を味わう	『古体詩一五首』	・古体詩が近体詩以前からある詩形であることを理解し、近体詩との違いを理解する。 ・詩を正確に読み、内容を理解する。 ・作者の心情を理解する。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
10 11	中国の思想	『儒家と道家』	・書き下し文を正確に書き、的確に現代語に訳す。 ・それぞれの思想家たちの立場の違いを理解し、思想の特徴をまとめる。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト

12	作り物語を味わう	『源氏物語』 「光源氏の誕生」「若紫」	・作品と作者について必要な知識を得る。 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解する。 ・敬語表現について学び、登場人物の人間関係を理解する。 ・現在までに書かれた現代語訳を比較し、そ違いを考察する。	18	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題
1 2 3	歴史物語を読む	『大鏡』 「道長、伊周の競射」	・古文特有の語句の読みや意味を理解する。 ・敬語表現について学び、人間関係や人物について把握する。	11	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	史記を味わう	『廉頗と藺相如』 「渾池之会」	・本文に含まれる句法について理解する。 ・主語を確認しながら、正確に内容を捉える。 ・全体の内容について、二つの国が相手に与えた圧力の観点から自分の意見をまとめる。	11	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

古典に親しみながら学ぶことによって、日本文化の特徴や伝統的な言語文化を理解しましょう。そして、私たちの言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会にかかわるために、自分の思いや広げたり深めたりしていきましょう。
(担当 黒・佐久間)

教科(科目)	国語(文学国語)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	三省堂『精選文学国語』				
副教材等	三省堂『精選文学国語 学習課題ノート』、第一学習社『意味から学ぶ常用漢字』、明治書院『現代を読むはじめての評論文 20 選改訂版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、自分の考え方を確立させることを目指します。 ③ 更にそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。読書の意義と効用について理解を深めている。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	領域ごとの授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	随筆	7 「B読むこと」	加藤周一「文学の仕事」	・例示と主張の関わりに注意して筆者の考え方を読み取る。 ・筆者の主張をふまえ、文学と自分との関係について考える。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト
5	小説	14 「B読むこと」 2 「A書くこと」	梶井基次郎「檸檬」	・作者の経歴やその他の作品について概略を知る。 ・主人公の言動を通して、心理状態を読み取る。 ・主人公を当時ひきつけたものと、押さえつけ憂鬱にさせたものについて考えを書く。	16	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題
6	小説	4 「B読むこと」 1 「A書くこと」	松田青子「少年という名のメカ」	・「少年」という存在の役割を考えながら作品の寓意を考える。 ・主人公の設定を書き換えて、物語を創作する。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題
7	言語活動	2 「A書くこと」	蜂飼耳「詩はいつでも近いところにある」	・詩や物語のもつ力について、筆者の主張を読み取る。 ・筆者の主張をもとに、今までに読んだことのある詩を取り上げて作文をし、発表する。	2	・授業の取り組み態度 ・ワークシート
8 9 10	小説	15 「B読むこと」 4 「A書くこと」	夏目漱石「こころ」	・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解する。 ・本文の語句について、意味の使われ方を理解する。 ・登場人物の心情や心理状態を読み取る。 ・主人公の行動や考え方について考えをまとめ、自分自身の生き方や考え方を捉え、考察を深める。	19	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題

11	詩歌	4 「B読むこと」 4 「A書くこと」	谷川俊太郎 「今日」・新川和江「わたしを束ねないで」・田村隆一「帰途」	・詩に用いられている語句について、意味や使われ方について理解する。 ・描かれた行動や言葉、表現の特色を理解する。 ・詩の表現とリズムの特徴、およびその効果を考えてまとめる。	8	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題
	言語活動	4 「A書くこと」	佐野洋子 「ありときりぎりす」	・教科書の例をもとに、翻案作品の特徴と作り方を理解する。 ・物語の形式や描写を工夫しながら昔話の翻案小説を書く。 ・グループで読み合い、批評し合う。	4	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・論述課題
12	評論	11 「B読むこと」	内田樹「読者の誕生と作者の死」	・テキストの読み取られ方について、例示をもとに歴史的な変遷を理解する。 ・筆者の主張をもとに、インターネットでのテキストのひろがり方について考える。	11	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト
1 2	戯曲	10 「B読むこと」	井上ひさし 「父と暮らせば」	・戯曲の脚本を読んで特徴を理解し、小説との違いを考える。 ・グループで戯曲の読み合わせを行い、解釈や感情の表現を工夫する。	16	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題
	言語活動	10 「A書くこと」	大岡信「連詩の愉しみ」	・本文を読み、文学の共同制作の意義について理解する。 ・本文の例をもとにグループで共同して連詩をつくり、鑑賞する。	10	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・論述課題
	小説	12 「B読むこと」 1 「A書くこと」	安部公房 「鞆」	・作品の雰囲気や表現の特徴に気を付けて読む。 ・「鞆」の象徴的意味を考える。 ・自分にとっての「鞆」にあたるものを考え、発表し合う。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・単元テスト ・論述課題

計 105 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 28 時間	B「読むこと」 77 時間
-----------------	------------------	------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

7 課題・提出物等

- ・各月に漢字テストがあります。テスト範囲は後日配布されるプリントを参照してください。
- ・単元ごとに、振り返りやテストにて評価を行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

文学は、人々の心の機微を描き、日常の世界を見つめなおす契機として、私たちの文化を築く上で重要な役割を果たしてきました。文学作品などの文学的文章を通して、豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識や教養を持ち、解釈の多様性について考察しながら自分のものの見方、感じ方、考え方を深めていきましょう。

(担当 小黒・斎藤・佐久間)

教科(科目)	公民(政治・経済)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 政治・経済』				
副教材等	進研学参『進研 WINSTEP 政治・経済』 浜島書店『最新図説政経』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- (3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

3 指導の重点

大学進学・専門学校進学・就職など希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解することを目指します。
- ② さらに、それらの理解を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断できるようになることを目指します。
- ③ その他に、よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論し、現代の諸課題を主体的に解決する態度を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ 単元テストの分析 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 単元テストの分析 ・ レポートやワークシート、提出物、論述課題などの内容の確認 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ パフォーマンステストの内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ レポートやワークシート、提出物、論述課題などの内容の確認 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A:十分満足できる」「B:おおむね満足できる」「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済	第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 ①政治と法の意義と機能 ②法の支配と立憲主義 ③基本的人権の保障と日本国憲法 ④現代社会における新しい人権 ⑤権利と義務との関係 ⑥議会制民主主義と世界の政治体制 ⑦国会の組織と立法	・現代日本の政治・経済の諸課題について、主体的に解決する方法を考え、議論し、表現する。	5	小単元テスト ワークシート 行動観察
5		⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ■諸課題へのアプローチ 「現代政治のあり方」 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 ①地方自治制度と住民の権利 ②政党政治と選挙 ■諸課題へのアプローチ 「主権者としての政治参加のあり方」	・日本国憲法と現代政治のあり方との関連について、多面的・多角的に考察し、主体的な解決に向けた表現をする。 ・主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察し、主体的に解決する方法を考え、議論し、表現する。 ・自己評価シートをもとに、自己の理解度や主体性を振り返り、事後の学習に活かす。	9	単元テスト ワークシート 論述課題 自己評価シート 行動観察

	6	第3節 市場経済の機能と限界 ①経済活動と市場 ②経済主体と経済循環 ③国民経済の大きさと経済成長 ④物価と景気変動 ⑤市場の失敗と公害・消費者問題 ■諸課題へのアプローチ 「外部不経済の内部化の方法」	・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決する方法を考え、議論し、表現する。 ・外部不経済の内部化の方法について、多面的・多角的に考察し、主体的に解決する方法を考え、議論し、表現する。	8	小单元テスト ワークシート パフォーマンス テスト 行動観察
	7	第4節 持続可能な財政および租税のあり方 ①財政のしくみと租税の意義 ■諸課題へのアプローチ 「持続可能な財政を実現するための税制のあり方」	・持続可能な財政を実現するための税制のあり方を考え、議論し、表現する。 ・自己評価シートをもとに、自己の理解度や主体性を振り返り、事後の学習に活かす。	5	小单元テスト ワークシート 論述課題 自己評価シート 行動観察
	9	第5節 金融を通じた経済活動の活性化 ①金融のしくみとはたらき ■諸課題へのアプローチ 「資金の流れと起業における資金調達のあり方」	・金融のしくみとはたらきについて、議論し、表現する。 ・資金の流れと起業における資金調達のあり方について、主体的に考え、議論し、表現する。	7	小单元テスト ワークシート 行動観察
	10	第6節 経済活動と福祉の向上 ①日本経済の変化と中小企業・農業問題 ②労使関係と労働問題 ③社会保障制度と福祉のあり方 ■諸課題へのアプローチ 「格差の理由とその対策」	・日本経済の変化や労使関係、社会保障制度について、議論し、表現する。 ・格差の理由とその対策について、主体的に考え、議論し、表現する。 ・自己評価シートをもとに、自己の理解度や主体性を振り返り、事後の学習に活かす。	8	小单元テスト ワークシート 論述課題 自己評価シート 行動観察
	11	第2章 現代日本の諸課題の探究 [選択] 1 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 2 地域社会の自立と政府 3 多様な働き方・生き方を可能にする社会 4 産業構造の変化と起業 5 歳入・歳出両面での財政健全化 6 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 7 防災と安全・安心な社会の実現	・現代日本の諸課題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考え、議論し、表現する。	7	小单元テスト ワークシート 行動観察

12	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済	第1節 国際法の果たす役割 ①国際社会の変遷 ②国際法の意義 ③国際機構の役割 ④国際紛争と軍縮への取り組み ■諸課題へのアプローチ 「国際法の役割と課題」	- 国際法の果たす役割について、議論し、表現する。 - 国際法の役割と課題について、主体的に考え、議論し、表現する。	6	単元テスト ワークシート パフォーマンステスト 行動観察
1		第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 ①日本の安全保障と国際貢献 ■諸課題へのアプローチ 「日本の国際貢献のあり方」 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 ①貿易の現状と意義 ②国民経済と国際収支 ③為替相場の変動 ④国際協調と国際経済機関の役割 ■諸課題へのアプローチ 「国際経済の現状と課題」	- 日本の安全保障と国際貢献のあり方について、議論し、表現する。 - 国際経済の現状と改題について、主体的に考え、議論し、表現する。	6	小単元テスト ワークシート 論述課題 行動観察
2		第4節 国際経済において求められる日本の役割 ①国際経済における日本の地位と国際協力 ■諸課題へのアプローチ 「国際経済の安定と成長に向けた日本の役割」	- 国際経済における日本の役割について、議論し、表現する。 - 自己評価シートをもとに、自己の理解度や主体性を振り返り、事後の学習に活かす。	6	小単元テスト パフォーマンステスト 行動観察 ワークシート 自己評価シート
3	第2章 国際社会の諸課題の探究	[選択] 1 グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容 2 地球環境と資源・エネルギー問題 3 国際経済格差の是正と国際協力 4 イノベーションと成長市場 5 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み 6 持続可能な国際社会づくり	- これまでの学習を活かし、国際社会の諸課題を主体的に解決する方法を考え、議論し、表現する。 - 年間自己評価シートをもとに、自己の理解度や主体性を振り返り、事後の学習に活かす。	3	単元テスト ワークシート レポート 年間自己評価シート 行動観察

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元ごとに「単元テスト」を行います。
- ・学期ごとの「振り返りシート」を記入し、提出することとなります。
- ・随時「レポート」や「ワークシート」、「論述課題」の提出指示があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

まもなく皆さんが活躍する場である現実社会の諸課題を理解し、主体的に解決しようとする態度を養います。そのために、事象を多面的・多角的に考察します。1年時の「公共」で身に着けた、基本的な社会のしくみや考え方、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を活かして主体性を持って学んでいきましょう。そして、多様化する社会の中で、主体的に思考し判断できる力、また、自己の考えを論理的に表現する力を身につけ、よりよい社会を実現するための手法を見出して欲しいと考えています。楽しんで学んでいきましょう。

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	東京法令出版『新編フォトグラフィア地理図説 2026』 帝国書院『高等学校新地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理にかかわる諸事象に関して、世界の文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みになどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

地理総合の指導の重点は以下の4つに分けられます。

- ①ICT 機器などで提供される地理情報を的確に読み取り、活用する方法を学ぶ。
 - ②自然災害の多い日本において、災害はどのように起こり、どのような備えをすればいいのか、被災した際にどのような行動をとるかを学ぶ。
 - ③環境問題などの地球的な課題において、そのような問題の原因と現状はどのようなものであるかを知り、その解消方法を考え、実行していくこと。
 - ④人間やモノの移動、情報もグローバル化している中で、自分の住んでいる場所と違う地域や国を知り、いかにして共に生きるかを考え、行動すること。
- これらの問題を知識として持ち、考え、行動することを求めています。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理にかかわる諸事象に関して、世界の文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みになどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

5 評価方法

評価は次の3観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・単元テストの知識・技能を問う問題。 ・まとめプリントやレポートなどの内容確認。	・単元テストの思考・判断を問う問題。 ・ワークシートの作成。 ・レポートや展示作品の作成・発表の技術。	・まとめプリントやレポートの提出状況。 ・振り返りシート。 ・グループワークやレポート発表での活動状況。

6 学習計画

月		教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	1節 地球上の位置と私たちの生活 2節 地図の役割と種類	・地球上の位置の表現や時差の考え方を理解させる。 ・地図の種類とその利用方法、それをどのようにして活用し、情報を利用できるかを、実際の地図の読図作業を含めながら理解する。	5	ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察
5	第2章 結びつきを深める現代世界	1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	・国家の成立条件、国家はどのようにして他の国家と区別されるのかを理解させる。そのうえで日本と周辺諸国の領土問題を学ぶ。 ・その一方で世界の国々はお互いに結びついている。国家連合・貿易・交通網・通信網・グローバル化する観光についてどのように国家同士、個人同士がつながっているかを理解する。	6	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察
6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活	・世界の諸地域を比較するとき、どのような方法があるか理解すること。 ・地形が世界各地の生活にどのような影響と違いを与えているのかを考察する。	8	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察

	7 ・ 8		2節 世界の気候と人々の生活	・気候は何によって形成され、気温・降水・風はどのように生まれ、地域差が生まれるかを理解する。 ・似た気候が見られる地域をまとめた気候区分の特色を理解し、そのような地域ではどのような植生が見られ、どのような生活が営まれているかを考察する。	6	ワークシート ワークシートを用いた考察および発表行動観察
	9		3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活	・世界の言語とその分布を理解し、言語の多様性と実際の利用、習得の実際を学ぶ。 ・世界の宗教とその分布を理解し、宗教が世界各地の生活にどのような影響を与えているかを学ぶ。 ・世界各地の文化が各地域の辿った歴史によって形成されていることを理解する。 ・各国の歴史的背景が現在でも様々な国の政治や文化の在り方に強い影響を与えていることを理解する。	8	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 夏休み宿題のレポート発表 行動観察
	10		5節 世界の産業と人々の生活	・世界の農業や工業がどのような自然条件や社会条件で成立してきたのかを理解する。 ・各地域で農業や工業がどのような生活や産業を生み出しているのかを理解する。	8	ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 夏休み宿題のレポート発表 行動観察
	11	第2章 地球的課題と国際協力	序説 地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	・世界には様々な環境問題とそのメカニズムを知り、それがどれだけの規模で問題となっているかを理解する。 ・環境問題の解消について個々人がどのような行動をとり、どのような場所に訴えるかを考察し、実践する。	8	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 夏休み宿題のレポート発表 行動観察
	12		3節 人口問題 4節 食料問題 て	・世界における人口・食料・都市居住問題について、その様な問題が起こる社会的背景を理解する。	6	ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 行動観察

1		5節 都市・居住問題 6節 地球的課題の解決に向け	・このような問題について個々人がどのような行動をとり、どのような場所に訴えるかを考察し、実践する。	6	ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 冬休み宿題のレポート発表 行動観察
2	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	序説 人々の生活と自然災害 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波による災害 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備えと復旧・復興	・日本の自然環境、とりわけ地形と気候についての特色を理解する。 ・日本は地震・津波などの自然災害による被害を受けやすい地域である。自然災害が起こるメカニズムを理解する。 ・自然災害が起こる前にはどのような備えが必要で、実際災害に遭ったときにどのような行動をとるかを考察する。またその中で周りの人々とどのように協力できるかを考える。	7	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 冬休み宿題のレポート発表 行動観察
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望 2	1節 生活圏の調査と地域の展望	・実際に地域調査に出るためにはどのような準備をすればいいのか、どのような調べ方をすればいいのかを考察し、実践できるようにする。	2	ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・単元ごとに単元テストを行います。
- ・まとめとしてワークシートを行い、その中で課題についての考察を行い、議論や発表を行います。
- ・ワークシートを提出し、評価します。
- ・夏休みと冬休みにはレポートを課し、発表を行います。

7 担当者からの一言

「地理総合」は全国の高校において必修となる科目です。地理というと地名や用語が覚えられないために苦手な人もいるかもしれませんが、これからの人生の中で有用になる科目だと思います。

まず、ICT 機器を普段から使うデジタルネイティブのみなさんが、ICT 機器を用いて地理上の情報を活用する方法を学んでいきます。それを用いて何が分かるかを考察し、学んでいきます。

2つ目に、日本は自然災害の多い国です。単に自然災害を恐れるのではなくて、自然災害がどのようにして起こるのか、自然災害が起こっても被害を少なくする方法、災害が起こった時にどのように行動すればいいのかを学び、正しく恐れるようにしましょう。

3つ目に世界には私たちと違う自然環境や文化を持っている人が沢山います。また日本国内でも海外をルーツとする人たちが増えています。そのような方々を差別せずに、どのようにして共に生活していけるかを学んでいきましょう。

令和8年度シラバス（歴史総合）

学番6 新潟県立新潟東高等学校

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版『歴史総合 新訂版 むすびつく世界と日本』				
副教材等	実教出版『歴史総合 新訂版 演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ、効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- 1 近現代史を中心に基本的な歴史事項や流れを学習します。その上で、対外関係や文化形成の面で、他地域とどのような関係を築き、影響を受けてきたのかを理解することを目指します。
- 2 国際関係の動向や他地域との交流の中で形成されてきた歴史の展開を、様々な歴史史料を活用し適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得し、自分の考え方を確立させることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的な歴史事象と時系列を理解し、知識を身に付けている。 ・テーマを設定し、それに対する自己の考えを歴史史料に基づき論理的にまとめ、レポートを作成することができる。	・世界の諸地域と日本の歴史的つながりを多角的視野でとらえ、自己の考えを歴史史料に基づき論理的にまとめ、筋道を立てて話し、適切に文章を書くことができる。	・世界の諸地域と日本の歴史に関心を示し、さらに掘り下げて学習する姿勢を身に付けようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト、小テスト ・レポートの内容 ・ワークシート などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・レポートの内容・発表 ・ディスカッション などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートの内容・発表 ・ディスカッション ・課題の提出 などから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時 数	評価方法
4 5	歴史の扉 ・近代化への問い 第1章 近代化 への胎動 第2章 欧米の 市民革命と「西洋 の衝撃」	教科書 演習ノート 課題プリン ト等	・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・中学までの学習及び「歴史の扉」の学習をふまえ、諸資料を活用して情報を読みとったりまとめたりする技能を取得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。 ・17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解する。 ・17世紀から19世紀にかけての、日本の4つの口を通じた周辺地域との関係に着目して、主題を設定しながら、周辺地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。 ・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治などに着目して、主題を設定しながら、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、アジアとの関係を相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府が崩壊していく関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。	14	単元テスト 小テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察

6 ・ 7	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代	教科書 演習ノート 課題プリント等	・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する。 ・19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。 ・19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀から20世紀初頭のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	12	単元テスト 小テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察
8 ・ 9 ・ 10	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	教科書 演習ノート 課題プリント等	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。	15	単元テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察

11 ・ 12	第6章 経済危機と第二次世界大戦	教科書 演習ノート 課題プリント等	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。	12	単元テスト 小テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察
1	第7章 冷戦と脱植民地化	教科書 演習ノート 課題プリント等	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。	7	単元テスト 小テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察

2	第8章 多極化する世界	教科書	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・巻末ワークを適宜活用し、世界と日本の関わりや、現在との違いについて多面的・多角的に考察し、表現する。	10	単元テスト 小テスト 演習ノート ワークシート やロイロノートを用いた考察および発表 行動観察
3	第9章 グローバル化と現代世界	演習ノート 課題プリント等			

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元テスト、小テスト（知識が定着しているかどうか）
- ・課題レポート（テーマに対して客観的に思考して主体的に判断し、適切に表現できているか）
- ・演習ノート、ワークシート、その他課題プリント（授業中の取り組み状況を確認する）
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

歴史総合は世界の諸地域と日本の歴史について近現代史を中心に学習します。対外関係や文化など周辺諸地域との密接な関係や相互に影響しあいながら現在までの歴史を刻んできたことを、多角的に考察してほしいと思います。そして、歴史を単に知識としてとらえるのではなく、現代社会にも歴史的経過が大きく影響していることをしっかりと意識してほしいと思います。なお、指導計画は行事等の事情で変更される場合があります。

教科(科目)	数学(数学Ⅰ)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『改訂版 数学Ⅰ Standard』				
副教材等	東京書籍『Standard Buddy WIDE 数学Ⅰ+A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

- (1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 授業を工夫し、教材の内容を十分に理解できるように努めます。
- ② ノートをしつかりとらせ、授業への集中力を高め、積極的に取り組む態度を養えるように努めます。
- ③ 類題演習を行い、自ら考え、解答を導く反復練習を習慣づけることを目指します。
- ④ 思考的な演習を通して、粘り強く考えたり、考察を深める力を養えるように努めます。
- ⑤ スタディサプリやプリント等の週末課題を活用して、家庭学習の習慣をつけさせることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・確認テストなどによる理解の到達度 ・単元テストの到達度 ・レポートやワークシート・提出物等の評価 ・ふりかえりシートによる評価 などから、評価します。	・単元テストによる到達度 ・課題テストによる到達度 ・課題研究への取り組み・成果 ・ふりかえりシートによる評価 などから、評価します。	・授業への取り組みの状況 ・提出物の取り組み状況 ・スタディサプリなどの進捗状況 ・ふりかえりシートによる評価 などから、評価します。
	・各観点の評価については、内容のまとまりや単元によって、取り組みや理解の達成を数値化し、各学期の観点別の達成具合を「A: 100%～80%」、「B: 79%～40%」、「C: 39%～0%」で数値化し、その3観点の平均を学期の成績(達成率)とします。 ・学年の成績(達成率)は1～3学期の観点別成績の平均を学年の観点別成績として算出し、その平均を学年成績(学年の達成率)とします。 ・評定は、学年成績をもとにして、本校規定に準じて評価します。 ・詳細の評価方法については、授業内で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	1章 数と式 1節 式の計算	・単項式と多項式 ・多項式の加法・減法・乗法 ・因数分解	8	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
5	2節 実数	・実数	3	単元テスト ふりかえりシート
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	
	3節 1次不等式	・根号を含む式の計算 ・不等式とその性質 ・1次不等式の解法 ・不等式の応用	6	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
6	2章 集合と論証 1節 集合 2節 命題と論証	・集合 ・命題と条件 ・論証 ・探究問題	10	
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	
7	3章 2次関数 1節 関数とグラフ	・関数 ・2次関数とそのグラフ	9	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
	1節 関数とグラフ 2節 2次方程式・2次不等式	・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 ・2次方程式の解法 ・2次方程式の実数解の個数	12	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
9	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
10	2節 2次方程式・2次不等式	・2次関数のグラフとx軸の共有点 ・2次不等式 ・2次不等式の応用 ・探究問題	9	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
11	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比	・直角三角形と三角比 ・三角比の相互関係	8	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
12	2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用	・三角比と座標 ・拡張した三角比の相互関係 ・正弦定理 ・余弦定理	11	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
1		・三角形の面積 ・空間図形の計量	6	
2	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関 3節 仮説検定の考え方	・データの整理と代表値 ・四分位数と箱ひげ図 ・分散と標準偏差 ・相関関係・相関係数 ・仮説検定の考え方	9	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
3	課題・探究学習	・課題学習・探究学習	7	授業の取組 ふりかえりシート

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ①問題集やスタディサプリなどから週末等に課題を課し、その取り組み状況や提出状況を評価する。
- ②長期休業中に課題を課し、課題テストを実施する。

8 担当者からの一言

- ①休まずに授業に参加しましょう。
 - ②授業で不明な点は質問をし、早く解決しましょう。
 - ③問題に取り組む際は、自分の考えを、人にわかるように筋道をしっかり示し、書き表しましょう。
 - ④授業中のノートは単に板書を写すだけでなく、重要事項や手順や使用する公式などがわかるように工夫しましょう。
 - ⑤自らの進路実現のために、必ず家庭学習時間を設け、勉強することを習慣化しましょう。
 - ⑥家庭学習は復習を中心に取り組み、スタディサプリを活用したり、与えられた課題などに取り組みましょう。
 - ⑦大学進学を目指している人は、より高度な問題にもチャレンジし、高いレベルに自らをもっていきましょう。
- (担当 渡辺 由仁)

教科(科目)	数学(数学Ⅱ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	東京書籍『数学Ⅱ Standard』				
副教材等	数研出版『基本と演習テーマ数学Ⅱ+B』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、

- ① 教材の内容を十分に理解できるように授業を工夫する。
- ② 授業へ積極的に取り組む態度を養う。ノートをしっかりとらせる。
- ③ 類題演習を行い、自ら考え、解答を導く反復練習を習慣づける。
- ④ 週末課題および確認テストを定期的に行い、生徒の理解度を適切に把握する。
- ⑤ スタディサブリの宿題配信および長期休業中の課題を活用して、家庭学習の習慣をつけさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数および微分法と積分法についての基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数および微分法と積分法において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	・式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数および微分法と積分法における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・確認テストなどによる理解の到達度 ・課題テストによる到達度 ・単元テストの到達度 ・レポートやワークシート・提出物等の評価 ・ふりかえりフォームによる評価	・単元テストによる到達度 ・課題テストによる到達度 ・課題研究への取り組み・成果 ・学びの基礎診断の結果・成果 ・ふりかえりフォームによる評価	・授業への取り組みの状況 ・提出物の取り組み状況 ・スタディサブリなどの進捗状況 ・ふりかえりフォーム等による評価
	・各観点の評価については、内容のまとまりや単元によって、取り組みや理解の達成を数値化し、各学期の観点別の達成具合を「A: 100%～80%」、「B: 79%～40%」、「C: 39%～0%」で数値化し、その3観点の平均を学期の成績(達成率)とします。 ・学年の成績(達成率)は1～3学期の観点別成績の平均を学年の観点別成績として算出し、その平均を学年成績(学年の達成率)とします。 ・評定は、学年成績をもとにして、本校規定に準じて評価します。 ・詳細の評価方法については、授業内で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	1章 式と証明 1節 多項式・分数式の計算	・多項式の乗法と因数分解、二項定理 ・多項式の除法	11	確認テスト 授業の取組
5	2節 2次方程式	・複素数とその計算	3	
	2節 2次方程式	・解の公式 ・解と係数の関係	7	確認テスト 授業の取組 単元テスト ふりかえり
6	3節 高次方程式 4節 式と証明	・因数分解と簡単な高次方程式 ・恒等式 ・不等式の証明	14	
	課題研究・探究学習	・課題学習	3	ふりかえり
7	2章 図形と方程式 1節 点と直線	・2点間の距離 ・内分点・外分点 ・直線の方程式	12	確認テスト 授業の取組 ふりかえり 単元テスト
8	2節 円 3節 軌跡と領域	・円の方程式 ・円と直線 ・軌跡とその方程式 ・不等式の表す領域	16	休み明け課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえり 単元テスト
9				
10	3章 三角関数 1節 三角関数	・一般角と弧度法 ・三角関数 ・三角関数の性質 ・三角関数のグラフ ・三角関数を含む方程式、不等式	15	確認テスト 授業の取組 ふりかえり 単元テスト
	課題研究・探究学習	・課題学習	3	ふりかえり
11	2節 加法定理	・加法定理とその応用 ・三角関数の合成	9	確認テスト 授業の取組 ふりかえり 単元テスト
12	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数	・指数の拡張 ・指数関数とそのグラフ ・対数とその性質	11	確認テスト 授業の取組 課題および課題テスト
1	課題研究・探究学習	・課題学習	3	ふりかえり
	2節 対数関数	・対数関数とそのグラフ ・常用対数	10	確認テスト 授業の取組 ふりかえり 単元テスト
2	第5章 微分と積分 1節 微分を考え 2節 積分を考え	・導関数 ・導関数の計算 ・関数のグラフと増減 ・原始関数	12	課題テスト 確認テスト 授業の取組 単元テスト ふりかえり
	2節 積分を考え	・定積分 ・面積	11	授業の取組 ふりかえり
3				

計140時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ① 問題集やスタディサプリなどから週末等に課題を課し、その取り組み状況や提出状況を評価する。
- ② 長期休業中に課題を課し、課題テストを実施する。

8 担当者からの一言

- ① 休まずに授業に参加しましょう。
- ② 授業で不明な点は質問をし、早く解決しよう。
- ③ 与えられた課題・宿題などは期日までに取り組み、提出しましょう。
- ④ 確認テストでは授業の内容の確認を、単元テストでは思考力を評価します。特に確認テストの取組を重点的に臨みましょう。
- ⑤ 自らの進路実現のために、スタディサプリなどを活用しつつ、必ず家庭学習時間を設け、勉強することを習慣化しましょう。
- ⑥ 大学進学を目指している人は、より高度な問題にもチャレンジし、不明な問題は質問して、自らを高いレベルにもっていきましょう。
(担当 渡辺 雅人)

教科(科目)	数学(数学A)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『改訂版 数学A Standard』				
副教材等	東京書籍『Standard Buddy WIDE 数学 I + A』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 授業を工夫し、教材の内容を十分に理解できるように努めます。 ② ノートをしっかりとりとらせ、授業への集中力を高め、積極的に取り組む態度を養えるように努めます。 ③ 類題演習を行い、自ら考え、解答を導く反復練習を習慣づけることを目指します。 ④ 思考的な演習を通して、粘り強く考えたり、考察を深める力を養えるように務めます。 ⑤ スタディサプリやプリント等の週末課題を活用して、家庭学習の習慣をつけさせることを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・確認テストなどによる理解の到達度 ・単元テストの到達度 ・レポートやワークシート・提出物等の評価 ・ふりかえりシートによる評価 - などから、評価します。	・単元テストによる到達度 ・課題テストによる到達度 ・課題研究への取り組み・成果 ・ふりかえりシートによる評価 - などから、評価します。	・授業への取り組みの状況 ・提出物の取り組み状況 ・スタディサプリなどの進捗状況 ・ふりかえりシートによる評価 - などから、評価します。
	・各観点の評価については、内容のまとまりや単元によって、取り組みや理解の達成を数値化し、各学期の観点別の達成具合を「A:100%～80%」、「B:79%～40%」、「C:39%～0%」で数値化し、その3観点の平均を学期の成績(達成率)とします。 ・学年の成績(達成率)は1～3学期の観点別成績の平均を学年の観点別成績として算出し、その平均を学年成績(学年の達成率)とします。 ・評定は、学年成績をもとにして、本校規定に準じて評価します。 ・詳細の評価方法については、授業内で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 2節 確率とその基本性質	・集合の要素の個数 ・数え上げの原則 ・順列 ・組合せ ・事象と確率	5	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
5			5	
6			5	
6	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
7	2節 確率とその基本性質	・確率の基本性質 ・独立な試行の確率	5	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
7	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
8	3節 いろいろな確率 2章 図形の性質 1節 三角形の性質	・反復試行の確率 ・条件付き確率 ・期待値 ・三角形と比 ・三角形の重心・外心・内心 ・チェバの定理とメネラウスの定理 ・円周角の定理	9	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
9				
10			8	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
10	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
11	2節 円の性質	・円に内接する四角形 ・円と接線 ・接線と弦のつくる角	6	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
11	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
12	2節 円の性質 3節 空間図形	・方べきの定理 ・2つの円 ・作図 ・直線と平面 ・直線と平面の垂直 ・多面体	7	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
1	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	3	課題テスト 確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
1	単元テスト・ふりかえり	単元テスト・ふりかえり	1	単元テスト ふりかえりシート
2	3章 数学と人間の活動 1節 整数の性質 2節 整数の性質の活用	・約数と倍数 ・最大公約数と最小公倍数 ・除法の性質と整数の分類 ・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ・整数の性質の活用	8	確認テスト 授業の取組 ふりかえりシート
3	3節 記数法	・記数法 ・記数法の歴史	4	授業の取組 ふりかえりシート

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ①問題集やスタディサプリなどから週末等に課題を課し、その取り組み状況や提出状況を評価する。
- ②長期休業中に課題を課し、課題テストを実施する。

8 担当者からの一言

- ①休まずに授業に参加しましょう。
 - ②授業で不明な点は質問をし、早く解決しましょう。
 - ③問題に取り組む際は、自分の考えを、人にわかるように筋道をしっかり示し、書き表しましょう。
 - ④授業中のノートは単に板書を写すだけではなく、重要事項や手順や使用する公式などがわかるように工夫しましょう。
 - ⑤自らの進路実現のために、必ず家庭学習時間を設け、勉強することを習慣化しましょう。
 - ⑥家庭学習は復習を中心に取り組み、スタディサプリを活用したり、与えられた課題などに取り組みましょう。
 - ⑦大学進学を目指している人は、より高度な問題にもチャレンジし、高いレベルに自らをもっていきましょう。
- (担当 渡辺 由仁)

令和8年度シラバス(数学B)

学番 6 新潟県立新潟東高等学校

教科(科目)	数学(数学B)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	東京書籍『数学B Standard』				
副教材等	数研出版『基本と演習テーマ数学Ⅱ+B』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
---	--

3 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、 ① 教材の内容を十分に理解できるように授業を工夫する。 ② 授業へ積極的に取り組む態度を養う。ノートをしっかりとらせせる。 ③ 類題演習を行い、自ら考え、解答を導く反復練習を習慣づける。 ④ 週末課題および確認テストを定期的に行い、生徒の理解度を適切に把握する。 ⑤ スタディサブリの宿題配信および長期休業中の課題を活用して、家庭学習の習慣をつけさせる。	
---	--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現したり考察したりすることができる。 ・確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。 ・日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりすることができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

5 評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・確認テストなどによる理解の到達度 ・課題テストによる到達度 ・単元テストの到達度 ・レポートやワークシート・提出物等の評価 ・ふりかえりフォームによる評価	・単元テストによる到達度 ・課題テストによる到達度 ・課題研究への取り組み・成果 ・学びの基礎診断の結果・成果 ・ふりかえりフォームによる評価	・授業への取り組みの状況 ・提出物の取り組み状況 ・スタディサブリなどの進捗状況 ・ふりかえりフォーム等による評価
評価方法	・各観点の評価については、内容のまとまりや単元によって、取り組みや理解の達成を数値化し、各学期の観点別の達成具合を「A: 100%～80%」、「B: 79%～40%」、「C: 39%～0%」で数値化し、その3観点の平均を学期の成績(達成率)とします。 ・学年の成績(達成率)は1～3学期の観点別成績の平均を学年の観点別成績として算出し、その平均を学年成績(学年の達成率)とします。 ・評定は、学年成績をもとにして、本校規定に準じて評価します。 ・詳細の評価方法については、授業内で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	1章 数列 1節 数列	・数列 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	9	確認テスト 授業の取組 ふりかえり
5				
6	2節 いろいろな数列	・数列の和の記号 Σ ・いろいろな数列	11	確認テスト 授業の取組 単元テスト
7	3節 漸化式と数学的帰納法	・漸化式 ・数学的帰納法	7	確認テスト 授業の取組 単元テスト
8	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布	・母集団と標本 ・確率分布 ・確率変数の平均と分散の性質 ・確率変数の和と積 ・二項分布	15	確認テスト 授業の取組 単元テスト
9				
10				
11	3節 正規分布	・正規分布	12	確認テスト 授業の取組 単元テスト
12				
1				
1	4節 統計的な推測	・母平均の推定 ・仮説検定	13	確認テスト 授業の取組 単元テスト
2				
3	課題研究・探究学習	・課題学習	3	ふりかえり

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ① 問題集やスタディサプリなどから週末等に課題を課し、その取り組み状況や提出状況を評価する。
- ② 長期休業中に課題を課し、課題テストを実施する。

8 担当者からの一言

- ①休まずに授業に参加しましょう。
- ②授業で不明な点は質問をし、早く解決しよう。
- ③与えられた課題・宿題などは期日までに取り組み、提出しましょう。
- ④確認テストでは授業の内容の確認を、単元テストでは思考力を評価します。特に確認テストの取組を重点的に臨みましょう。
- ⑤自らの進路実現のために、スタディサプリなどを活用しつつ、必ず家庭学習時間を設け、勉強することを習慣化しましょう。
- ⑥大学進学を目指している人は、より高度な問題にもチャレンジし、不明な問題は質問して、自らを高いレベルにもっていきましょう。

(担当 田原賢一)

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	改訂版 高等学校 化学基礎 (数研出版)				
副教材等	改訂版高等学校化学基礎 準拠 ナビゲーションノート (数研出版) リードLight ノート化学基礎 (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な脂質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 基本的な内容の定着を図るとともに、学んだことを記録、整理する方法を身に付ける。 (2) 実験により学習内容を確認するとともに、科学的に探究する力を高める。 (3) 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考ようとする態度を育てる。

3 指導の重点

① 物質とその変化について、物質の特徴を理解させるため、授業の内容を視覚的に整理できるよう、図や表を用いたノートの取り方を指導する。ICTを利用した学習で、生徒の積極性や主体的に取り組む態度を育てる。 ② 化学と物質について、実験の正確な操作だけでなく観察・実験などに関する技能を身に付け、見通しをもって実験を行い、科学的に考察し、自分の言葉で表現させる。 ③ 実験等でグループワークを行い、意見交換を通して化学に関する事物への興味を高め、科学的に探究しようとする集団を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質をその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・単元テスト ・小テスト ・実験レポート ・実験への取り組み	・単元テスト ・実験レポート ・ワークシートの記述 ・実験への取り組み	・授業に臨む姿勢・意欲 ・ノート提出 ・課題提出
	などから、評価します。	などから、評価します。	などから、評価します。

6 学習計画

	月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
	4月5月	物質の構成 物質の構成粒子	教科書 副教材	・純物質と混合物 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動 ・原子とその構造	12	小テスト レポート ワークシート
	6月7月	物質の構成粒子 粒子の結合	教科書 副教材	・イオン ・周期表 ・化学結合	13	小テスト レポート ワークシート 単元テスト
	8月9月	物質と化学反応式	教科書 副教材	・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・溶液の濃度 ・化学反応と物質質量	9	小テスト レポート ワークシート 単元テスト
	10月11月	酸と塩基の反応	教科書 副教材	・酸と塩基 ・水素イオン濃度と pH	15	小テスト レポート ワークシート 単元テスト
	12月1月	酸と塩基の反応 酸化還元反応	教科書 副教材	・中和反応と塩 ・中和滴定 ・酸化と還元	11	小テスト レポート ワークシート 単元テスト
	2月3月	酸化還元反応	教科書 副教材	・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の利用	10	小テスト レポート ワークシート

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

・実験を行った際には、実験レポートを提出します。 ・単元テストごとに、副教材等を提出します。 ・その他の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

「化学基礎」は、日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について科学的に探究する力を養う科目です。学習したことをもとに、科学的に探究する力を高めることを目指します。 授業では、基礎・基本を大切に、疑問点は必ず質問するようにしましょう。ノートやプリントへは、ただ黒板の内容を書き写すだけではなく、後で見直したときにわかるような工夫をするようにしましょう。 (担当：植木、岩嶋、藤田)
--

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 新生物基礎』				
副教材等	第一学習社『新課程版 標準セミナーノート 生物基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

①日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。

②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

① 生物の学習内容を、医療・環境・食料・生命倫理などの社会的課題と結び付けながら、授業ノートのまとめ方の指導や、日々の授業の振り返りを行う。

② 観察、実験などに関する基本操作ができるよう的確な指示を出す。仮説を立て、検証し、考察する過程を大切にし、得られた結果を分析して解釈し、自分の言葉で説明できるようにする。

③ 生物多様性の保護がどれほど重要かを実感させるために、絶滅危惧種をテーマに種の保存と環境保全の関係について探究し、個々に学習した内容をクラスで情報共有することで、多くの知識に触れる機会を設ける。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・単元テスト ・小テスト ・実験レポート ・実験への取り組み などから、評価します。	・単元テスト ・実験レポート ・ワークシートの記述 ・発表への取り組み などから、評価します。	・授業に臨む姿勢・意欲 ・ノート提出 ・ロイロノートの課題提出 ・振り返りシート などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性	教科書 問題集	・多様な生物にも共通性があることを理解し、観察をして確かめる。 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解する。 ・呼吸や光合成では ATP が合成されていること、生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ・顕微鏡の使い方を習得する。	7	小テスト 単元テスト 実験レポート 授業への取り組み
5	2. 生物とエネルギー			7	
6					
7	第2章 遺伝子とその働き	教科書 問題集	・DNA の構造を理解し、DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。 ・DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解し、細胞内で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。	10 6	小テスト 単元テスト 実習レポート 授業への取り組み
8	1. 遺伝情報と DNA				
9	2. 遺伝情報とタンパク質の合成				
10	第3章 ヒトのからだの調節	教科書 問題集	・自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。 ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 ・私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 ・免疫と、病気や治療法との関係について理解する。	12 8	小テスト 単元テスト 授業への取り組み
11	1. からだの調節と情報の伝達				
	2. 免疫				
12	第4章 生物の多様性と生態系	教科書 問題集	・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。日本に分布するバイオームについて理解する。 ・生態系がどのように構成され、生態系の中で多様な生物がどのように関係して存在しているのかを理解する。 ・生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。 ・人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。	10 10	小テスト 単元テスト 実習レポート 授業への取り組み
1	1. 植生と遷移				
2	2. 生態系とその保全				
3					

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・各単元内にある探究等についての課題の提出を求めます。
- ・実験を行った際には、実験レポートの提出を求めます。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

授業に集中し、ノートは後で見返して理解できるように図や用語の説明を加え、自分なりに工夫しましょう。わからないことは積極的に質問し、自分で調べ、演習問題は何度も繰り返し、基礎となる用語などはしっかり身に付けるよう努力しましょう。

担当：(宮尾)

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・技能の習得状況 ・スポーツのルールに関する知識 ・安全にスポーツを行うための知識 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・試合形式の企画および運営方法の理解 ・振り返りシートの記入状況 ・チームワークや仲間を思いやる気持ちを持って授業に取り組むことができるか。 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・安全面への配慮（服装などを含む） ・出席の状況 ・スポーツにおける公正な態度 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション			1	評価なし
	体づくり運動		※1 体づくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと体はぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わること。	2	※2 授業態度及び学習への取り組み姿勢から評価

	5	陸上競技 50m 100m ハードル		陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。短距離走では、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることや、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。	10	※3 授業態度及び学習への取り組みと技能テスト、学習カード、振り返りシートなどから総合的に評価する。
		サッカー (ゴール型)		球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。	8	※4 授業態度及び各種区別の段階的な学習とその取り組み及び試合形式競技成績などから総合的に評価する。
		バスケットボール (ゴール型)			8	
	6					
	7					
	8	体づくり運動		※1	1	※2
	9	陸上競技 持久走		陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること。	10	※3
		ソフトボール (ベースボール型)		球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。	8	※4
	10	柔 道 ダ ン ス		※5 柔道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。 ダンスについて、感じを込めて踊ったり、交流や発表の仕方、課題解決の方法、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすること。	8	※6 授業態度及び各種区別の段階的な学習とその取り組み及び型や礼法などから総合的に評価する。
		バドミントン (ネット型)		※7 球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。	10	※4
	11					
	12	体づくり運動		※1	5	※2
	1	体づくり運動				
		柔道・ダンス		※5	8	※6
		バレーボール (ネット型)		※7	10	※4
	2				10	
	3	体育理論	現代保健体育	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	6	授業態度及びプリント・課題の内容及び提出
				1 人間にとって「働く」とは何か		
				2 スポーツの始まりと変換		
				3 文化としてのスポーツ		
				4 オリンピックと国際理解		
				5 スポーツと経済		
				6 ドーピングとスポーツ理論		

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・各実技種目にはスキルテストがあり、技能の評価も重要視している。
- ・体育理論においては課題プリントの提出を求められる。

8 担当者からの一言

・技能や実技の記録だけでは評価を付けることはありません。集合・号令や体操、準備および片付けなど協力して行っているか、主体的に授業に取り組み、周囲とコミュニケーションをとりながら行動できるかといった点も評価に入ります。運動が苦手でも積極的に取り組んでください。

担当 体育科

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)				
副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・技能の習得状況 ・スポーツのルールに関する知識 ・安全にスポーツを行うための知識 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・試合形式の企画および運営方法の理解 ・振り返りシートへの記入状況 ・チームワークや仲間を思いやる気持ちを持って授業に取り組むことができるか。 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・安全面への配慮(服装などを含む) ・出席の状況 ・スポーツにおける公正な態度 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション			1	
	体づくり運動		※1 体づくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うこと。	4	※3 授業態度及び学習への取り組み姿勢から評価

5	陸上競技 50m 100m			陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。短距離走では、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることや、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。円盤投げでは立ち投げ円盤に力を伝えること。	8	※4 授業態度及び学習への取り組みと技能テスト、学習カード、振り返りシートなどから総合的に評価する。		
	テニス			・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。 ・柔道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすること。	7	※5 授業態度及び各種区別の段階的な学習とその取り組み及び試合形式競技成績などから総合的に評価する。		
	柔道				7			
	テニス				7			
	柔道				7			
	6	柔道			陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること。	7	※4	
	7	柔道				7	※5	
	8	屋内選択Ⅰ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球						
	9	バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球						
	10	陸上競技 持久走			陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること。	7	※4	
	11	屋内選択Ⅰ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球			※2 球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。	7	※5	
	12	体づくり運動			※1	1	※3	
	1	体づくり運動			※1	1	※3	
	2	屋内選択Ⅱ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球			※2	7	※5	
	3	体育理論		現代 保健 体育	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	6	授業態度及びプリント・課題の内容及び提出	
					1 スポーツの技術と戦術	2 技能の上達過程と練習		
					3 効果的な動きのメカニズム	4 技能と体力		
					5 体力トレーニング	6 運動やスポーツでの安全の確保		

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・各実技種目にはスキルテストがあり、技能の評価も重要視している。
- ・体育理論においては課題プリントの提出を求められる。

8 担当者からの一言

・技能や実技の記録だけでは評価を付けることはありません。集合・号令や体操、準備および片付けなど協力して行っているか、主体的に授業に取り組み、周囲とコミュニケーションをとりながら行動できるかといった点も評価に入ります。運動が苦手でも積極的に取り組んでください。

(担当： 体育科)

令和8年度シラバス（保健体育）

学番6 新潟県立新潟東高等学校

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)				
副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。

5

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・技能の習得状況 ・スポーツのルールに関する知識 ・安全にスポーツを行うための知識 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・試合形式の企画および運営方法の理解 ・振り返りシートの記入状況 ・チームワークや仲間を思いやる気持ちを持って授業に取り組むことができるか。 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・安全面への配慮(服装などを含む) ・出席の状況 ・スポーツにおける公正な態度 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション			1	
	体づくり運動		※1 体づくり運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。	7	※3 授業態度及び学習への取り組み姿勢から評価
	陸上競技 50m 100m 円盤投		陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。短距離走では、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることや、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。円盤投げでは立ち投げ円盤に力を伝えること。	13	※4 授業態度及び学習への取り組みと技能テスト、学習カード、振り返りシートなどから総合的に評価する。
	屋外選択Ⅰ テニス フットサル ソフトボール サッカー		※2 球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。	14	※5 授業態度及び各種区別の段階的な学習とその取り組み及び試合形式競技成績などから総合的に評価する。
5					
6					
7					
8	屋外選択Ⅱ テニス フットサル ソフトボール サッカー		※2	14	※5
9					
10	陸上競技 持久走		陸上競技について記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること。	6	※4
11	屋内選択Ⅰ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球		※2	14	※5
12	体育理論	現代保健体育	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ 3 日本のスポーツ振興 4 スポーツと環境	6	授業態度及びプリント・課題の内容及び提出
1	体づくり運動		※1	2	※3
	屋内選択Ⅱ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球		※2	14	※5

2	屋内選択Ⅲ バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	※2	14	※5
---	---	----	----	----

計 105 時間 (50 分授業)

7 評価方法

- ・種目男女別換算表による換算点などから総合的に評価する。
- ・各種区別の段階的な学習とその取り組み及び試合形式競技成績などから総合的に評価する。
- ・授業態度及び学習への取り組み姿勢から評価などから、総合的に評価します。

8 担当者からの一言

・技能や実技の記録だけでは評価を付けることはありません。集合・号令や体操、準備および片付けなど協力して行っているか、主体的に授業に取り組み、周囲とコミュニケーションをとりながら行動できるかといった点も評価に入ります。運動が苦手でも積極的に取り組んでください。

担当 体育科

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

3 指導の重点

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業での発言 ・プリント等の取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・グループワークでの活動の取り組み ・課題への取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物の状況 ・授業の出席状況 ・授業準備や片付けなどの取り組み などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
保健編 1単元 現代社会と健康				
4	健康の考え方と成り立ち	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	1	・学習活動への取り組みの状況 ・単元テスト ・プリント、課題の内容・ノートの提出状況
	私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	1	
5	生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	2	

		がんの原因と予防	- がんの種類や原因について説明できる。 - がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	1	
6		がんの治療と回復	- がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 - がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	1	
		運動と健康	- 健康と運動の関係について説明できる。 - 目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	1	
		食事と健康	- 食事と健康の関係について説明できる。 - 健康的な食事のとり方について説明できる。	1	
7		休養・睡眠と健康	- 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 - 健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方について説明できる。	1	
		喫煙と健康	- 喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 - 喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	2	- 学習活動への取り組みの状況 - 単元テスト - プリント、課題の内容・ノートの提出状況
9		飲酒と健康	- 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 - 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	2	
9		薬物乱用と健康	- 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 - 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	2	
10		精神疾患の特徴	- 精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 - 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	2	
		精神疾患の予防	- 精神疾患を予防する方法について説明できる。 - 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	2	
		精神疾患からの回復	- 精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 - 精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	2	
		現代の感染症	- 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 - 新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	2	
11		感染症の予防	- 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 - 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	2	
		性感染症・エイズとその予防	- 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 - 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	2	
12		健康に関する意思決定・行動選択	- 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 - 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	1	
		健康に関する環境づくり	- 社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 - ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	1	
保健編 2単元 安全な社会生活					
1		事故の現状と発生要因	- 事故の実態と被害の実態について説明できる。 - 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	1	- 学習活動への取り組みの状況 - 単元テスト - プリント、課題の内容・ノートの提出状況
		安全な社会の形成	- 安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 - すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	1	
		交通における安全	- 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 - 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	1	
2		応急手当の意義とその基本	- 応急手当の意義について説明できる。 - 傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	1	
		日常的な応急手当	- 日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 - 実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	1	
3		心肺蘇生法	- 心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 - 実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	1	

計35時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・単元毎のプリント
- ・ノート提出等により評価

8 担当者からの一言

単元ごとのテストおよびノート等課題の提出、授業への取り組みを総合的に評価します。また、グループ学習もありますので、仲間とコミュニケーションをとりながら課題解決ができるよう協力する姿勢も大切です。

担当 体育科

令和8年度シラバス（保健体育）

学番6 新潟県立新潟東高等学校

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業での発言 ・プリント等の取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・グループワークでの活動の取り組み ・課題への取り組み などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物の状況 ・授業の出席状況 ・授業準備や片付けなどの取り組み などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	保健編 3 単元 生涯を通じる健康			・学習活動への取り組みの状況 ・単元テスト ・プリント、課題の内容 ・ノートの提出状況
4	ライフステージと健康	ライフステージと健康の関連について説明できる。	2	
	思春期と健康	・思春期における男女の性の特徴を考え、行動や心理面に起こる変化を理解する。	2	
	性意識と性行動の選択	・心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について、男女の意識の違いなども含め理解を深める	2	
5	妊娠・出産と健康	・受精のメカニズムを知り、妊娠から出産までの過程と、胎児と母体の変化についての理解を深める。	2	
	避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義や避妊法の特徴などを知り、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響および、人工授精・体外受精などの問題点についても理解を深める。	2	
6	結婚生活と健康	・結婚に関する制度を知るとともに、家族の健康を保つために、どのような対策が必要であるかについての理解を深める。	2	
	中高年期と健康	・加齢に伴う心身の変化について知り、高齢化が進む社会で行われている施策や生活環境の整備についての理解を深める。	2	
7	働くことと健康	・労働と健康のかかわりについて理解を深める。また、職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。	2	
	労働災害と健康	・労働災害や職業病とはどのようなものかを知り、それぞれの原因や予防のための対策についての理解を深める。	2	
8	健康的な職業生活	・労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らがとるべき対策についても理解を深める。	2	
	保健編 4 単元 健康を支える環境作り			・学習活動への取り組みの状況 ・単元テスト ・プリント、課題の内容 ・ノートの提出状況
9	大気汚染と健康	・大気汚染の原因を知るとともに、大気汚染によって引き起こされる健康被害について考え、大気汚染防止のための対策についての理解を深める。	2	
	水質汚濁、土壌汚染と健康	・私たち生物にとっての水の重要性を知るとともに、水汚染の現状・対策についての理解を深める。 ・土壌の役割について知り、土壌汚染の現状やその対策についての理解を深めるとともに、足尾鉍毒事件などの健康被害、公害についても理解を深める。	2	
10	環境と健康にかかわる対策	・産業廃棄物を処理する過程での不法投棄や不法な焼却などの問題点を知り、産業廃棄物による環境汚染を防ぐための施策についての理解を深める。	2	
11	ごみの処理と上下水道の整備	・わが国における上下水道の整備状況やゴミ処理方法について理解を深めるとともに、ゴミを少なくするための方策についての理解を深める。	1	
	食品の安全性	・食品の安全性を確保する対策を考え自ら出来るように知識の理解を深める。	1	
12	食品衛生にかかわる活動		1	
	保健サービスとその活用	・わが国で行われている、保健行政について具体的な施策を知るとともに、活用できる知識を深める。	1	
1	医療サービスとその活用	・医療制度の仕組みや医療保険について理解を深める。	1	
	医薬品の制度と活用	・私たちの身の回りにある保健機関について、それぞれの機関がもつ役割について理解を深め、活用できるようにする。	2	

	2	さまざまな保健活動や社会的対策		1	
	3	健康に関する環境づくりと社会参加		1	

計 35時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元毎に単元テスト
- ・各単元解説プリント、課題の内容
- ・ノートの提出状況

8 担当者からの一言

単元ごとのテストおよびノート等課題の提出、授業への取り組みを総合的に評価します。また、グループ学習もありますので、仲間とコミュニケーションをとりながら課題解決ができるよう協力する姿勢も大切です。

担当 体育科

教科(科目)	芸術Ⅰ(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	教育出版『音楽Ⅰ Tutti+』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 音楽の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、歌唱・器楽演奏の能力の向上を図り、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、音楽文化の社会的・歴史的な意味や価値を考え、音楽の美を味わい感受することができるようにする。
- (3) 主体的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽の伝統と文化に親しみ、音楽を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

- ① 音楽表現をするために必要な基本的な知識と技能を身に付ける。
- ② 自己のイメージをもって音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- ③ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽を愛好する姿勢を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を知覚し、それらの働きを感受している。知覚したことと感受したことの関わりについて考え、表現意図をもっている。	表現及び鑑賞の学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・筆記テストの分析 ・実技テストの分析 ・レポートやワークシート、ノートなど提出物の内容確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・論述課題の分析 ・演奏発表の取り組みの観察 ・レポートやワークシート、ノートなど提出物の内容確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や態度の観察、特に粘り強い取り組みで自らを向上させようとしているか、を重視 ・自己評価シートの内容の確認 ・ノートの記述内容の確認 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション 校歌の理解と歌唱 イメージをもつて歌う	ふるさと校歌 他 夏の思い出 他	・日本語の歌を歌う。 ・校歌を歌い、ノートに書いて歌詞を覚える。 ・歌詞の意味を考えて歌う ・曲想と歌詞の関連について考える。 ・Review of Basics①②を学習し、「あなたにとって音楽とは」を200字程度で記述する。	4	記述課題 ノート提出 実技テスト
5	日本歌曲を歌う	浜辺の歌 他	・日本語の抑揚や間、語感、歌詞としが、旋律の流れやフレーズにどのように表されているかを考える。 ・自分のイメージで、表現を工夫する。 ・日本語の言葉の特性に関心をもつ。	6	プリント課題 実技テスト
6	楽典①	楽譜の約束	・中学までの知識の復習を行い、高校の授業に必要な内容を身につける。	4	筆記テスト
6	リコーダー・アンサンブル	いつも何度でも 他	・リコーダー奏法の基礎を確認、身につける。 ・課題曲の練習により、演奏技術を身につける。個別指導(レッスン)。	8	実技テスト ノート提出
7	リズムの基礎練習と合奏	リズムの基礎 野菜の気持ち	・基礎的なリズムの理解と表現を身につける。 ・課題曲の練習と個別レッスン ・グループごとに合奏曲の練習とレッスン。	8	実技テスト
8	外国語の歌を歌う	イタリア語、ドイツ語の歌曲、プリント	・サンタルチアの発音 ・野ばらの発音 ・野ばらについて、詩と音楽の考察 ・歌曲の歴史をたどる ・歌唱の個別レッスン	4	記述課題 実技テスト
9	ギター弾き語り	翼をください	・ギターの基礎的な奏法を身につける。練習と個別レッスン。 ・弾き語りのための練習。練習と個別レッスン。	8	記述課題 実技テスト
10	楽典②	コードネーム	・コードネームの内容の理解	6	実技テスト

11	リズムによるアン サンプル	合奏曲	・リズム表現に関する事項を身に付け、歌 唱や器楽で表す。 練習とグループごとにレッスン。	8	記述課題 実技テスト
12	音楽史と鑑賞	ロマン派まで の音楽 未定	・さまざまな時代の楽曲を鑑賞し、音楽の 特徴と文化的・歴史的背景について理解す る。 ・総合芸術における物語と音楽の関わりを 理解する。	2	記述課題、ノート提出
1	合奏 リコーダー・ギタ ー・キーボードに よる	1年間で学習 した教材	・合奏表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項 について理解する。 ・技能に関する事項を身に付け、歌唱や器 楽、創作で表す。 ・グループごとにレッスン。	8	記述課題 筆記テスト 実技テスト
2	楽典③調性と移調	調性 移調	・調性の「知識」に関する諸事項について理 解する。 ・指定の調へ確実に移調する。	2	筆記テスト
3	まとめ			2	

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・いくつかの単元をまとめて、筆記テストを行う。
- ・筆記テストの後で、ノートを提出する。
- ・歌唱と器楽については、単元ごとに実技テストを行う。

8 担当者からの一言

音楽Ⅰの授業では、歌唱・器楽を中心にしながら、さまざまな音楽表現を行います。歌唱では独唱のほかに重唱・合唱を、器楽ではリコーダー・ギター・キーボード演奏を行う予定です。音楽の発展に貢献してきた先人たちの努力・工夫に対して常に敬意を払い、現在音楽を楽しむことができている幸せを実感し、今後の音楽のあり方についても一緒に考えてみましょう。

(担当：立川)

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	光村図書『書Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

- ① 基礎的な能力の育成。
- ② 表現・鑑賞の学習を通した生涯学習社会における資質・能力の育成。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業時の観察 ・ワークシート ・作品 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業時の観察 ・ワークシート ・作品 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中におこなう作品鑑賞会での発表やワークシートへの取組の観察 ・前向きに授業に取組み、他者の作品についても興味関心をもつこと。作品についての分析や考えを言語化できるよう努める。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	導入 《書写から書道へ》		・書写と書道の違いを理解する。 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。		
5	仮名の書 《古筆の臨書》	いろは歌 高野切第三種	・鑑賞を通して仮名の成立について理解する。 ・基本線の練習をする。 ・変体仮名について理解する。 ・古典の用筆・運筆を理解し、身に付ける。 ・連綿の練習をし、その効果を理解する。	10	授業時の観察 ワークシート 作品
6					
7	漢字の書 《楷書の臨書》	孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘	・基礎的な用筆・運筆を習得する。 ・鑑賞を通して、肉筆と拓本の線の違いについて理解する。 ・古典名・時代・作者名を理解する。 ・各古典の用筆・運筆を理解し、身に付ける。 ・鑑賞を通して各古典の線質、字形や構成を理解し、表現する。	20	授業時の観察 ワークシート 作品
9	漢字の書 《篆刻》	牛橛造像記	・漢字の書体の変遷を理解する。		
10			・鑑賞を通して印に対する理解を深める。	10	
11	漢字の書 《行書の臨書》	蘭亭序	・行書の特徴を理解する。 ・古典名・時代・作者名を理解する。 ・字形の取り方を理解する。 ・用筆・運筆法を理解する。		
12	漢字の書 《創作》		・表現の研究をする。(線の表現や構成の工夫、) ・制作意図に基づいた表現をする。 ・他者の作品を鑑賞し、批評する。	12	授業時の観察 ワークシート 作品
1	漢字仮名交じりの書 《名言名句を書く》	俳句を素材として 作品制作	・表現の研究をする。(線の表現や構成の工夫) ・制作意図に基づいた表現をする。 ・他者の作品を鑑賞し、批評する。	12	授業時の観察 ワークシート 作品
2	生活の中の書 《実用書の学習》		・のし書きや履歴書、手紙文の書式をふれる。		
3		のし書き		6	授業時の観察 ワークシート 作品

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・各単元・教材ごとに作品を仕上げ、提出する。
- ・ワークシートの提出。

8 担当者からの一言

書道は、筆に墨をつけて紙に書くというシンプルな行程でおこなわれます。その作業から生まれる作品は様々な要素を含み、大変奥深いものです。皆さんも、書道の奥深さに触れてみてください。

(担当：小川 貴史)

教科(科目)	芸術(美術Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	光村図書出版株式会社「美術1」				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通じて、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現方法を創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構造を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 指導の重点

美術Ⅰとして、

- ① 感じたことや考えたことなどを基にした発想や構想想像などから作品制作をします。
- ② 表現形式の特性を生かしながら、形体、色彩、構成などを工夫し作品制作をします。
- ③ 目的、機能、美しさなどを考え確立させることを目指します。
- ④ 美術作品などのよさや作者の心情や意図を感じ取り、理解を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の中で学んだ技法や表現を取り入れ自分なりの作品を制作している。 ・美術文化を幅広く理解し、その良さを伝えている。	・課題を理解し感性や想像力を働かせて主題を生成し、構想を練っている。 ・作品の意図や背景を想像し鑑賞している。	・作品制作や鑑賞に関心をもち、提出期限を守り、積極的に課題に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	提出された作品やレポートのほか、制作過程や授業への取り組みなどから総合的に評価します。	提出された作品やレポートのほか、制作過程や授業への取り組みなどから総合的に評価します。	提出された作品やレポートのほか、制作過程や授業への取り組みなどから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
一学期	絵画・彫刻	デッサン	- 鉛筆の削り方 - 形のとらえ方 - グラデーション - 静物デッサン - 自分の席から見た風景（室内）を描く	10	- 授業の取り組み - 課題提出 - 鑑賞カード
	デザイン	色彩	- 色相環を描きながら色相、明度、彩度を理解する。 - 混色でさまざまな色を作る。 - アクリル絵の具の使い方を学ぶ。	10	
	鑑賞	鑑賞	- 教科書に掲載されている作品を鑑賞 - 図書室蔵書に掲載されている作品を鑑賞	3	
二学期	デザイン	平面構成	- 単純な線を組み合わせた構図を練る。 - 色彩の知識を生かし、色彩計画を練る。	9	
	絵画・彫刻	いきものをつくる (紙粘土立体造形)	- 粘土で生命感を表現する。 - 作品制作の手順を計画する。	10	
	鑑賞	鑑賞	生徒作品を鑑賞する。	1	
	絵画・彫刻	年賀状（木版画）	- 木版画の技法を理解し作品を制作する。 - 年賀状としてふさわしいデザインを考える。	10	
三学期	絵画・彫刻	切り絵	- 切り絵の特徴を理解し、それを生かした作品構想を練る。 - 道具を適切に使用して作品を制作する。	10	
	鑑賞	鑑賞	- 他者（生徒）の作品、教科書や図書館蔵書に掲載されている作品を鑑賞する。 - 多様な芸術を紹介する映像を鑑賞する。	7	
				70	

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・完成作品とともに作品説明カードを提出します。
- ・作品鑑賞の際はレポートを提出します。
- ・完成した作品は教室前廊下等で展示します。

8 担当者からの一言

中学校で養った基本的表現力と鑑賞能力をさらに高め、美術のおもしろさを感じてほしいと思います。

(担当：谷澤 登喜子、鈴木 晃)

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅠ)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	文英堂『New Edition Grove English CommunicationⅠ』				
副教材等	Z会『速読英単語 必修編 [改訂第8版]』、啓隆社『Listening Essentials 1 六訂版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、多くの支援を活用すれば、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができるようにする。

3 指導の重点

- 日常的な話題や社会的な話題について、
- ① 対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することを目指します。
 - ② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することを目指します。
 - ③ 情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合うことを目指します。
 - ④ 情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝えることを目指します。
 - ⑤ 情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝えることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 ・ 振り返りシート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝え合う。	Communication with People Around the World	状況によってことばが果たす役割が異なることを話して伝え合う。	8	課題テスト パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
5		Pets and Humans: Together Through Time	ペットの種類や歴史、役割、人との関係について話して伝え合う。	10	
6	聞いたり読んだりして、必要な情報、概要等、詳細を捉えたり、自分の考えを書いて伝えたりする。	Musubi - Ties and Knots	伝統的に日本人が結びに込める感謝や願いについて読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	10	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
7	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝える。	The Power of Mushrooms	森の中でキノコが果たす役割について話して伝える。	10	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
9	聞いたり読んだりして、必要な情報、概要等、詳細を捉えたり、自分の考えを書いて伝えたりする。	Braille Neue: Connecting Dots with Lines	点字の歴史や高橋さんが展示に込める思いを読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	10	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
10	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝え合う。	Is This Meat Real or Fake?	食糧問題を解決する新しい技術について話して伝え合う。	10	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
11	聞いたり読んだりして、必要な情報、概要等、詳細を捉えたり、自分の考えを書いて伝えたりする。	Plastic Polluting Our Oceans	海洋に流れ出たプラスチックが環境に与える影響について読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	10	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
12	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝える。	Manga: A Global Hit!	世界中でマンガがどのように受け入れられているかを話して伝える。	10	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート

1	聞いたり読んだりして、必要な情報、概要等、詳細を捉えたり、	The Mysteries and Secrets of Petra	ペトラ遺跡の歴史と謎について読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	9	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
2	自分の考えを書いて伝えたりする。	Greta Thunberg: No One Is Too Small to Make a Difference	グレタさんの主張と行動について読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	10	
3	聞いたり読んだりして、必要な情報、概要等、詳細を捉えたり、自分の考えを書いて伝えたりする。	Hairspray	1960 年代のアメリカを舞台にした物語について読み取ったり、自分の考えを書いたりする。	8	課題テスト（来年度4月） 小テスト 言語活動への取組

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・教科書『New Edition Grove English Communication I』について、各月、単元テスト（ペーパーテストあるいはパフォーマンステスト）があります。なお、パフォーマンステスト実施後、振り返りシートの提出があります。
- ・副教材『速読英単語 必修編 [改訂第8版]』について、週の最初に小テストがあります。
- ・副教材『Listening Essentials 1 六訂版』について、週の最後に活動があります。活動ごとに提出用回答シートの提出があります。

8 担当者からの一言

英語学習は、あなたの使える英語を育てることです。あなたの興味・関心のある目的に応じて、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことをバランスよく取り入れ、間違いを恐れず挑戦することで、あなたの使える英語は確実に育ちます。最初は小さなものでも、続けることでやがて大きなものになります。日々の学習の積み重ねが、あなたにしか作り出せない言葉となっていきます。

英語を使うときの間違いは失敗ではありません。「ここがまだ足りない」という気づきにつながる大切なチャンスになります。「間違い→気づき→仮説検証」を繰り返すことで、あなたの使える英語は更新されていきます。間違いは、成長を前に進めるきっかけとなり、バージョンアップに欠かせません。

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅡ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	文英堂『Grove English Communication II』				
副教材等	文英堂『Grove English Communication II WORKBOOK』、三省堂『クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版』、桐原書店『HyperListening Pre-Intermediate 4th Edition』、数研出版『Keys to Listening 2』、三省堂『MY WAY マイウェイ総合英語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、一定の支援を活用しながら、必要な情報を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができ、また、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく伝えることができる。

3 指導の重点

- ① 自分ごととして考えられる身近な素材について、思考を深め、問題解決に向かう学びを目指します。
- ② 話題(テーマ)を中心に言語活動を行いながら、英語でのやりとりを通して理解を深めていくことを目指します。
- ③ 5つの領域(聞く、読む、話す[やり取り]、話す[発表]、書く)について、単元ごとに目標を明確にしていきます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて、適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な課題について、英語で情報や考えなどの概要や要点などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次の通りです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト - 小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト - 言語活動への取組 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト - 小テスト - 言語活動への取組 - ワークブック - 振り返りシート などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちを話して伝え合おう①	Breakfast Around the World	世界のさまざまな朝食の話題について、自分の考えを比較的単純な表現と短い文で話す。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック
5	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう①	What Makes You a Good Street Dancer?	ダンスについて、聞いたり読んだりして理解し、ダンスがうまくなるポイントに関連した短い文を書く。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック
6	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちを話して伝えよう①	Volunteering and Music Bring Us Together	ボランティアの話題について、個人的な気持ちや考えの概要を、簡単なことばで話す。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック ペーパーテスト
7	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう②	・Zoos — Roles and Challenges ・Salty Coffee	動物園の役割や Salty Coffee について、聞いたり読んだりして主題や内容を理解し、簡単な表現や文を連ねて書く。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック パフォーマンステスト 振り返りシート
9	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちを話して伝え合おう②	Paper Can Change the Future	紙の歴史と環境問題について、個人的な気持ちや考えの概要を、簡単なことばで話す。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック ペーパーテスト
10	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう③	Our Advanced Network Society	デジタル社会の問題点と未来について、聞いたり読んだりして主題や内容を理解し、簡単な表現や文を連ねて書く。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック パフォーマンステスト 振り返りシート
11	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちを話して伝えよう②	Connecting with People	人と人とのつながりについて、個人的な気持ちや考えの概要を、簡単なことばで話す。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック ペーパーテスト
12	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう④	Practice Makes Perfect: A Japanese Baker's World Victory	ある人物の成し遂げたことについて、聞いたり読んだりして主題や内容を理解し、つながりのある文章を書く。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック

1	聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちを話して伝えたり、質問したりしよう。	The World Without Honeybees	ミツバチが果たしている役割について、個人的な気持ちや考えを、簡単なことばと短い文で、ある程度詳しく話す。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック パフォーマンステスト 振り返りシート
2	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう⑤	The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland	歴史的建造物について、聞いたり読んだりして要点を把握しながら理解し、つながりのある文章を書く。	13	言語活動への取組 小テスト ワークブック ペーパーテスト
3	聞いたり読んだりして概要や要点を捉えたり、情報や考え、気持ちを書いて伝えよう⑥	Rickshaw Girl	Rickshaw Girl について、聞いたり読んだりして要点を把握しながら理解し、つながりのある文章を書く。	10	言語活動への取組 小テスト ワークブック

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・教科書『Grove English Communication II』について、単元ごとにパフォーマンステスト、あるいは、ペーパーテストを行います（レッスン1つを1単元とします）。単元テストごとに『Grove English Communication II WORKBOOK』の提出があります。また、パフォーマンステストでは振り返りシートの提出があります。
- ・副教材『クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版』について、週の最初に小テストを行います。
- ・副教材『HyperListening Pre-Intermediate 4th Edition』については上記小テスト後の授業で学習します。
- ・副教材『Keys to Listening 2』は主に家庭学習用の副教材です。単元テスト前は授業でも学習します。

8 担当者からの一言

コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、聞く、読む、話す、書くことができるように、高校1年次から継続して、英語のチャンクを意識しながら学んでいきましょう。チャンクは「意味的にまとまっている語句のかたまり」のことです。会話や文章において、あるチャンクが別のチャンクを連鎖反応的に呼び起こし、意味のある流れを作り出していきます。そのため、英語のチャンクをたくさん学ぶことで、チャンクごとに区切って情報や考えなどを的確に理解したり、チャンクを組み合わせて自分の考えや気持ちを適切に表現したりすることができるようになります。また、英語はどういうことばなのか、大きくとらえていくことも必要です。英語は「配置のことば」とも言う人がいるくらい語順が大切です。いつ、どこに、どんなチャンクをつなげるのかがわかってくると、たいへん学びやすくなります。

(担当: 杉村 尚彦)

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションⅢ)	単位数	4単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	文英堂『Grove English Communication Ⅲ』				
副教材等	文英堂『Grove English Communication Ⅲ WORKBOOK』、三省堂『クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版』、第一学習社『Active Listening 3 THIRD EDITION』、三省堂『MYWAY マイウェイ総合英語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができ、また、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ち、課題の解決策などを論理的に詳しく伝えることができる。

3 指導の重点

- 日常的な話題や社会的な話題について、
- ① 多様な対話や説明等から概要・要点・詳細を聞き取り、意図や論理展開を把握することを目指します。
 - ② 様々な文章を読み、概要・要点・詳細を捉え、筆者の主張や論理構成を理解することを目指します。
 - ③ 情報や考えなどを、目的や場面に応じて適切な表現で、即興に論理的かつ詳細に伝え合うことを目指します。
 - ④ 情報や考えなどを、理由や根拠を示し、論理の一貫性に留意して詳しく話して伝えることを目指します。
 - ⑤ 情報や考えなどを、構成や論理の流れを工夫し、一貫性のある文章で詳しく書いて伝えることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて、適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、必要な情報を把握したり、概要や要点、詳細を的確に捉えたりしている。また、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、課題の解決策などを論理的に詳しく伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 ・ 振り返りシート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の意見を伝え合おう	・ Fashion Revolution: Who Made Your Clothes? ・ The Custom of Food Samples	衣服、食品サンプル、夢の実現について、情報や考え、気持ちを話して伝え合う。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト
5	概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書こう	・ Socotra: A Unique Island ・ No Meat on Monday	世界遺産、Meat Free Mondayについて、概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書く。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 パフォーマンステスト
6	自分がまとめた情報や考えを発表しよう	・ Holiday Weight Gain ・ A Feathery Find in Amber	祝祭日、絶滅動物、感染症について、情報や考え、気持ちなどを話して伝える。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト
7	概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書こう②	・ The Way You Look at a Problem ・ A Song for the Queen	確証バイアス、シルビア王、ブレイクダンスについて、概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書く。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 パフォーマンステスト
9	聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の意見を伝え合おう②	・ Audrey Tang: Not Just an IT Expert ・ Earth Hour	オードリー・タン、EV、児童労働について、情報や考え、気持ちを話して伝え合う。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 パフォーマンステスト
10	概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書こう③	・ Spot Fake News ・ The Sagrada Familia: A Spiritual Wonder	フェイクニュース、サグラダ・ファミリアについて、概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書く。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト
11	自分がまとめた情報や考えを発表しよう②	・ NASA' S Hidden Treasure: Human Computers	NASAについて、情報や考え、気持ちなどを話して伝える。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト
12	自分がまとめた情報や考えを発表しよう③	・ Why Can' t You See It?	Gorillas in Our Midstの実験と注意の錯覚について、情報や考え、気持ちなどを話して伝える。	14	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト
1 2 3	概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書こう④	・ The Svalbard Global Seed Vault	種子貯蔵庫について、概要や要点を捉え、自分の考えや感想を論理的に書く。	28	言語活動への取組 小テスト・提出物 ペーパーテスト

計 140 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・教科書『New Edition Grove English Communication III』について、各月、単元テスト（ペーパーテストあるいはパフォーマンステスト）があります。なお、パフォーマンステスト実施後、振り返りシートの提出があります。
- ・副教材『クラウン チャンクで英単語 Standard 第2版』について、週の最初に小テストがあります。
- ・副教材『Active Listening 3 THIRD EDITION』について、週の最後に活動があります。活動ごとに提出用回答シートの提出があります。

8 担当者からの一言

これまでの学習の集大成として、自分の考えを社会的な話題や多様な視点と結び付けながら発信する力を養います。教科書で扱う内容も広がり、求められるのは「正しく伝えること」だけでなく、「相手に伝わるように構成し、説得力をもって表現すること」です。授業では、自分の意見を論理的にまとめ、発信する経験を重ねていきます。

また、自分の英語を客観的に見直し、より適切な表現へと磨いていく姿勢が重要になります。一度で完成させるのではなく、推敲や改善を重ねることで、表現の質は大きく高まります。英語を「学ぶ対象」から「使いこなす手段」へと高め、自分の進路や将来につながる実践的な力として身に付けていきましょう。

教科(科目)	外国語(論理・表現Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	三省堂『My Way Logic and Expression I New Edition』				
副教材等	数研出版『GRAND EARTH 基礎からの新々総合英語 新訂版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、多くの支援を活用すれば、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりすることができるようにする。

3 指導の重点

- 日常的话题や社会的な話題について、
- ① 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることを目指します。
 - ② 情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝えることを目指します。
 - ③ 情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに段落を書いて伝えることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ パフォーマンステスト ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 ・ 振り返りシート などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	自分や学校のことについて、情報や考えを書いて伝える。	Let's Talk about Ourselves	初対面のあいさつや自己紹介のスピーチをする。	6	課題テスト ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
5		School Life	好きな教科や部活動を紹介する記事の原稿を書く。	6	
6	アートのおもしろさについて、情報や考えを理由とともに話して伝え合う。	The Arts	週末の予定や好きな絵について話して伝え合う。	7	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
7	料理や食文化のことについて、情報や考えを書いて伝える。	Food and Culture	料理を注文したり、日本の食文化を紹介するレポートを書いたりする。	7	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
9	町の魅力について、情報や考えを理由とともに話して伝える。	Welcome to Our Town	道案内したり、地域の特徴やマスコットキャラクターについて発表したりする。	7	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
10	旅行について、情報や考えを書いて伝える。	Traveling Abroad	買い物をしたり、旅行先から友達へメッセージを書いたりする。	7	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
11	スポーツの魅力について、情報や考えを理由とともに話して伝え合う。	Sports	スポーツの試合について話したり、車いす競技を紹介したりする。	7	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート
12	未来の技術について、情報や考えを書いて伝える。	Future Mobility	最新の製品や AI を使った未来の技術を紹介する記事の原稿を書く。	6	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
1	健康について、情報や考えを理由とともに話して伝える。	Take Care	病院での会話や健康についての発表をする。	6	ペーパーテスト 小テスト 言語活動への取組
2	科学で実現できる夢について、情報や考えを理由とともに話して伝える。	Technology Changes Our Lives	先端科学技術を紹介する発表をする。	6	パフォーマンステスト 小テスト 言語活動への取組 振り返りシート

3	情報や考えを理由とともに話して伝え合う。	Debate	あるテーマについて肯定側と否定側に分かれて意見を述べ合う。	5	課題テスト（来年度4月） 小テスト 言語活動への取組
---	----------------------	--------	-------------------------------	---	----------------------------------

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・教科書『My Way Logic and Expression I New Edition』について、各月、単元テスト（ペーパーテストあるいはパフォーマンステスト）があります。なお、パフォーマンステスト実施後、振り返りシートの提出があります。
- ・副教材『GRAND EARTH 基礎からの新々総合英語 新訂版』について、週の最初にテストがあります。

8 担当者からの一言

英語を話したり書いたりするとき、辞書や文法書をそのまま使っているわけではありません。これまでに学んだ英語や実際に使った経験をもとに、自分なりのルールを組み合わせながら、文章や会話を生み出しています。英語を学ぶということは、あなたの使える英語をより豊かな自由に使えるものへバージョンアップしていくことです。

自動化できる段階とは、英語をスラスラ使える状態です。私たちがしたいことは、英語を日本語みたいに使うこと。英語を学びはじめると、たくさんの表現に出会い混乱するものです。しかし、何度もそうした表現に出会っていくことで、ルールやパターンが見え、あなたの使える英語が育っていきます。繰り返し同じ英語に触れることで、自動化でき、スラスラと使えることを目指していきましょう。

教科(科目)	英語(論理・表現Ⅱ)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	三省堂『MY WAY Logic and Expression Ⅱ』				
副教材等	三省堂『MY WAY Logic and Expression Ⅱ ワークブック』、三省堂『MY WAY マイウェイ総合英語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

多くの支援を活用して、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。さらに、調べ学習を通じ、プレゼンテーションやディスカッションの活動へと進んでいく。

3 指導の重点

- ① 情報や自分の考えを、目的や場面、状況に応じて、表現するための応用力を身に付けることを目指します。
- ② 情報や自分の考えを、論理の構成や展開に工夫しながら伝えることができるようになることを目指します。
- ③ パラグラフ・ライティングなどの言語活動を通して、論理的に文章を組み立て、発表する方法を学んでいきます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて、適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な課題について、英語で情報や考えなどを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト などから評価します	- ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト - 言語活動への取組 などから評価します	- ペーパーテスト - パフォーマンステスト - 課題テスト - 言語活動への取組 - 振り返りシート などから評価します

	内容のまとまりごとに、各観点について以下のように評価します。 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。
--	---

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	情報や考えを書いて伝える	I Love My Country!	現在完了形・過去完了形を使って表現する。 情報を追加したり感想を補い、表現する。	5	課題テスト 言語活動への取組 ワークブック
5	情報や考えを書いて伝える	The New Wave of Sports	助動詞を使って、人に何かを説明する力を養う。	8	ペーパーテスト ワークブック 言語活動への取組
6	情報や考えを話して伝え合う	プレゼンテーション	トピックについて十分な資料を収集して整理し、パラグラフの構造に留意して原稿を準備する。聞き手を意識して、自分の伝えたいことをわかりやすく話す。	7	パフォーマンステスト 言語活動への取組 振り返りシート
7	情報や考えを話して伝える	The Future of Technology	さまざまな受動態や不定詞の用法を通じて、身近な例を参考に文章を書く。	7	ペーパーテスト ワークブック 言語活動への取組
9	情報や考えを書いて伝え合う	ディスカッション	明確な論理展開で、伝えたいことを書く。全員で目的〔ゴール〕を確認し、達成を目指して話し合いをする。	8	パフォーマンステスト 言語活動への取組 振り返りシート
10	情報や考えを書いて伝える	Rediscover Kabuki	不定詞・動名詞、知覚動詞、使役動詞を用いながら、日本の文化を海外に向けて紹介する想定で作文する。	7	ペーパーテスト 言語活動への取組 ワークブック
11	情報や考えを話して伝える	パラグラフ・ライティング	1年次に学んだパラグラフ・ライティングについて復習する。その上で、2つのパラグラフから成る文章を書く。	7	パフォーマンステスト 言語活動への取組 振り返りシート
12	情報や考えを書いて伝える	Will Our Lives Change with AI?	動名詞や分詞構文を用いながら AI と共存しながらやりがいのある仕事を考える。	6	言語活動への取組 ワークブック
1	情報や考えを書いて伝える	Experience Madagascar's Wildlife	さまざまな比較表現を用いて、普段あまりなじみがないようなことについて、インターネットなどで情報収集する。	6	ペーパーテスト 言語活動への取組 ワークブック
2	情報や考えを書いて伝える	Can We Go and Live on Mars?	関係代名詞の制限用法、非制限用法を使って、比較的長い文をつくり、論理的・一貫性のある文章を完成させる。	7	言語活動への取組 ワークブック
3	情報や考えを書いて伝える	Language and Society	仮定法の基礎を習得し、自分の伝えたい内容を作文する。	2	言語活動への取組 ワークブック

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

教科書『MY WAY Logic and Expression II』について、レッスンによってペーパーテスト、パフォーマンステストがあ

ります。ペーパーテストごとに『MY WAY Logic and Expression II ワークブック』の提出があります。また、パフォーマンステストごとに振り返りシートの提出があります。

8 担当者からの一言

昨年度は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、話す、書くことができるように、基礎的な文法事項や用法を学んできました。今年度はそれらを踏まえ、より深い活動ができるよう努力していきましょう。具体的には、身近なトピックはもちろん、普段あまりなじみのない話題にも目を向け、インターネットなどで情報収集をおこない、それを自分の言葉でわかりやすく相手に発信する力を身に付けていきます。基礎的な英語力を習得することはもちろん、身近な話題だけでなく広く社会に目を向けることにより、自分の思いや考えをしっかりと持つことが大切となってきます。この1年間、がんばっていきましょう。

(担当：杉村 尚彦)

教科(科目)	外国語 (論理・表現Ⅲ)	単位数	2 単位	学年(コース)	3 学年
使用教科書	三省堂『MY WAY Logic and Expression Ⅲ』				
副教材等	三省堂『MY WAY Logic and Expression Ⅲ』、三省堂『MY WAY 総合英語』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ② 自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ③ 正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ④ 自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ② 個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ③ 地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ④ 生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、一定の支援を活用しながら、多様な語句や文を適切に用いて、情報や考え、気持ち、意見、主張、課題の解決策などを、相手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができる。

3 指導の重点

- ① 知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を目的や場面、状況に応じて活用できる力を身につけることを目指します。
- ② 学校生活、社会問題、環境問題など、日常的な話題や社会的な話題の中で自分のことに置き換えて発表をしたり、文章を書いたりすることによって、論理的に表現する能力を身につけることを目指します。
- ③ 基礎・基本となる文法知識を練習問題や言語活動と結びつけながら知識を活用へつなげ、発展的な力を身につけることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 英語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて、適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5 評価方法

評価方法	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ レポート ・ 課題テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ レポート ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテスト ・ レポート ・ 課題テスト ・ 言語活動への取組 ・ ワークブック などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう①	・ Survey Results	・ アンケート結果をもとに自分の考えを表現する。 ・ 自分の希望を伝えるメールを書く。	10	・ ペーパーテスト ・ ワークブック ・ 言語活動への取組
6	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう②	・ Writing a Blog	・ グラフや講義の内容をもとに自分の提案や活動について発表する。	6	・ ペーパーテスト ・ ワークブック ・ 言語活動への取組
7	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう③	・ Essay Writing ①	・ 複数の段落を使ってエッセイを書く。	6	・ レポート ・ 言語活動への取組
9	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう④	・ Making a Proposal	・ ほかの人の提案をもとに自分の提案を書く。	8	・ ペーパーテスト ・ ワークブック ・ 言語活動への取組
10	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう⑤	・ Making a Speech	・ 講義やウェブサイトの内容をもとに自分の提案やメッセージを書く。	8	・ ペーパーテスト ・ ワークブック ・ 言語活動への取組
11 12	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう⑥	・ Essay Writing ②	・ 複数の段落を使ってエッセイを書く。	12	・ レポート ・ 言語活動への取組
1 2 3	情報や考え、気持ちを書いて伝えよう⑦	・ Talking About the Future	・ 複数の段落を使ってエッセイを書く。	20	・ レポート ・ 言語活動への取組

計70時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・教科書『MY WAY Logic and Expression III』のUNIT1とUNIT2について、単元ごとにペーパーテストを行います(レッスン2つを1単元とします)。ペーパーテストごとに『MY WAY Logic and Expression III WORKBOOK』の提出があります。
- ・教科書『MY WAY Logic and Expression III』のSpecial Activityについて、パフォーマンステストがあります。パフォーマンステストは発表形式の場合とレポート提出の場合があります。

8 担当者からの一言

コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、聞く、読む、話す、書くことができるように、高校1年次から継続して、英語のチャンクを意識しながら学んでいきましょう。チャンクは「意味的にまとまっている語句のかたまり」のことです。会話や文章において、あるチャンクが別のチャンクを連鎖反応的に呼び起こし、意味のある流れを作り出していきます。そのため、英語のチャンクをたくさん学ぶことで、チャンクごとに区切って情報や考えなどを的確に理解したり、チャンクを組み合わせる自分の考えや気持ちを適切に表現したりすることができるようになります。

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版『新家庭基礎 気づく力 築く未来』				
副教材等	実教出版『新家庭基礎 気づく力 築く未来』学習ノート 実教出版『Life Design 資料+成分表+ICT』2026				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

実践的・体験的な学習活動を通して、周りの様々な人と協働・協力し、自分や周りの地域社会の生活をより良くしていける資質・能力を育成する。 ・自分らしい生き方や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族・子どもや高齢者の福祉・衣食住・消費生活などの基礎的な知識・技能を身につける。 ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 指導の重点

・人が生きていくうえで必要な、特に家庭生活にかかわる基本的な知識や技能を身につける。 ・学んだ知識・技能を自分が置かれている日々の生活の中で実践できる態度を育てる。 ・体験学習を行い、体験することにより学んだ知識・技能をより確実なものにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解している。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて生活を主体的に営むために自分の周りにある問題を見いだしている。	生涯にわたって生活を主体的に営むために自分の周りにある問題を見いだす態度を身に付けようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・レポート ・プレゼンテーション ・作品 ・ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・レポート ・プレゼンテーション ・作品 ・ワークシート などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	家庭基礎を学ぶにあたって	・オリエンテーション ・学習の意義や内容、学習方法、評価の方法を理解する。	1	学習ノート ワークシート
5	第2章 子どもとかわる	・子どもとは ・子どもの発達 ・子どもの生活 ・子どもをはぐくむ ・子どものための社会福祉	9	学習ノート ワークシート 作品 行動観察 単元テスト
6	第5章 食生活をつくる	・日本の食文化の形成 ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・これからの食生活を考える	14	学習ノート ワークシート 単元テスト 調理実習 作品
7				
8	(夏休み：ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動)	・ホームプロジェクトの課題を見つけ、夏休み中に調査研究をする ・ボランティア活動を考える ・夏休み中に取り組んだホームプロジェクトについてレポートを発表する	2	学習ノート ワークシート レポート プレゼンテーション
9	第7章 住生活をつくる	・人間と住まい ・住まいの文化 ・住まいを計画する ・健康に配慮した快適な ・安全な住まい ・持続可能な住まいづくり	10	学習ノート ワークシート 単元テスト
10	第6章 衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり ・衣服の素材の種類と特徴 ・衣服の選択から管理まで ・持続可能な衣生活をつくる ・衣服の構造・デザイン ・簡単な被服製作を通して構造を知る	9	学習ノート ワークシート 作品 行動観察 単元テスト
	第1章 自分らしい生き方と家族	・自分の未来予想図を描こう ・自立と共生 ・ライフキャリアを見つめ直す ・共に生きる家族 ・家族に関する法律	6	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト
11	第3章 高齢者とかわる	・高齢社会に生きる ・高齢者を知る ・高齢者の自立を支える ・高齢社会を支えるしくみ	5	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト

1 2	第4章 社会とかかわる	・支え合って生きる ・共生社会を生きる	2	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト
1 2	第8章 消費行動を考える	・消費行動と意思決定 ・消費生活の現状と課題 ・消費者の権利と責任 ・ライフスタイルと環境	5	学習ノート ワークシート 単元テスト
3	第9章 経済的に自立する	・暮らしと経済 ・将来のライフプランニング	6	学習ノート ワークシート 単元テスト
	まとめ	・あなたが歩みたい人生について考えよう	1	ワークシート・シート

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

評価は、単元テストの結果や、提出物、授業中の活動状況等をみて総合的にを行います。日々の学習の積み重ねを大切に取り組んでください。単元テストの成績も大切ですが、学習ノート、レポート、作品、ワークシート等、提出期限を守りきちんと完成させるよう心掛けてください。

8 担当者からの一言

- ・授業に休まず出席することが一番大切です。
- ・日々の家庭生活を意識し、多くの人と共に支えあって生きていることに気づきましょう。
- ・毎日朝食を摂り、こころと身体の健康の基礎である食生活を大切にしましょう。
- ・毎日の生活に楽しみを見つけ、常に向上心を持ってよりよい明日を生きるつもりで授業に取り組みしましょう。
- ・学んだことを自分の生活にいかしましょう。

(担当：吉田 友美)

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版『新家庭基礎 気づく力 築く未来』				
副教材等	実教出版『新家庭基礎 気づく力 築く未来』学習ノート 実教出版『Life Design 資料+成分表+ICT』2026				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

実践的・体験的な学習活動を通して、周りの様々な人と協働・協力し、自分や周りの地域社会の生活をより良くしていける資質・能力を育成する。

- ・自分らしい生き方や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族・子どもや高齢者の福祉・衣食住・消費生活などの基礎的な知識・技能を身につける。
- ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 指導の重点

- ・人が生きていくうえで必要な、特に家庭生活にかかわる基本的な知識や技能を身につける。
- ・学んだ知識・技能を自分が置かれている日々の生活の中で実践できる態度を育てる。
- ・体験学習を行い、体験することにより学んだ知識・技能をより確実なものにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解している。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて生活を主体的に営むために自分の周りにある問題を見いだしている。	生涯にわたって生活を主体的に営むために自分の周りにある問題を見いだす態度を身に付けようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・レポート ・プレゼンテーション ・作品 ・ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・学習ノート ・レポート ・プレゼンテーション ・作品 ・ワークシート などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	家庭基礎を学ぶにあたって	・オリエンテーション ・学習の意義や内容、学習方法、評価の方法を理解する。	1	学習ノート ワークシート
5	第1章 自分らしい生き方と家族	・自分の未来予想図を描こう ・自立と共生 ・ライフキャリアを見つめ直す ・共に生きる家族 ・家族に関する法律	6	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト
	第2章 子どもとかわる	・子どもとは ・子どもの発達 ・子どもの生活 ・子どもをはぐくむ ・子どものための社会福祉	9	学習ノート ワークシート 作品 行動観察 単元テスト
	第3章 高齢者とかわる	・高齢社会に生きる ・高齢者を知る ・高齢者の自立を支える ・高齢社会を支えるしくみ	5	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト
6	第4章 社会とかわる	・支え合って生きる ・共生社会を生きる	2	学習ノート ワークシート 行動観察 単元テスト
7	第6章 衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり ・衣服の素材の種類と特徴 ・衣服の選択から管理まで ・持続可能な衣生活をつくる ・衣服の構造・デザイン ・簡単な被服製作を通して、構造を知る	10	学習ノート ワークシート 作品 行動観察 単元テスト
8	(夏休み：ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動)	・ホームプロジェクトの課題を見つけ、夏休み中に調査研究をする ・ボランティア活動を考える ・夏休み中に取り組んだホームプロジェクトについてレポートを発表する	2	学習ノート ワークシート レポート プレゼンテーション
9	第7章 住生活をつくる	・人間と住まい ・住まいの文化 ・住まいを計画する ・健康に配慮した快適な ・安全な住まい ・持続可能な住まいづくり	9	学習ノート ワークシート 単元テスト
10	第5章 食生活をつくる	・日本の食文化の形成 ・私たちの食生活 ・栄養と食品のかかわり	14	学習ノート ワークシート

1 1		・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・これからの食生活を考える		単元テスト 調理実習 作品
1 2				
1	第8章 消費行動 を考える	・消費行動と意思決定 ・消費生活の現状と課題 ・消費者の権利と責任 ・ライフスタイルと環境	5	学習ノート ワークシート 単元テスト
2				
3	第9章 経済的に 自立する	・暮らしと経済 ・将来のライフプランニング	6	学習ノート ワークシート 単元テスト
	まとめ	・あなたが歩みたい人生について考えよう	1	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

評価は、単元テストの結果や、提出物、授業中の活動状況等をみて総合的にを行います。日々の学習の積み重ねを大切に取り組んでください。単元テストの成績も大切ですが、学習ノート、レポート、作品、ワークシート等、提出期限を守りきちんと完成させるよう心掛けてください。

8 担当者からの一言

- ・授業に休まず出席することが一番大切です。
- ・日々の家庭生活を意識し、多くの人と共に支えあって生きていることに気づきましょう。
- ・毎日朝食を摂り、こころと身体の健康の基礎である食生活を大切にしましょう。
- ・毎日の生活に楽しみを見つけ、常に向上心を持ってよりよい明日を生きるつもりで授業に取り組みしましょう。
- ・学んだことを自分の生活にいかしましょう。(担当：内山)

教科(科目)	情報(情報Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版 最新情報Ⅰ 新訂版				
副教材等	実教出版 最新情報Ⅰ 新訂版 学習ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションを実現し、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画できる態度を養う。

3 指導の重点

- ・生徒を取り巻く情報技術が高度化し、その利便性だけでなく問題も指摘されていることなどから、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。
- ・さらに、今後の社会におけるプログラミング技術の必要性の高まりも考慮し、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解し、基礎的なプログラミングの概念を学び、実践力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報通信ネットワークやコンピュータの基礎知識を含め情報の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、社会や自然などの事象をモデル化する手法や関連する技術を身に付けている。	・情報セキュリティの重要性や情報モラルについて理解を深めるとともに、情報の分野にかかわる課題を発見し、望ましい情報社会の構築に向けて合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	・よりよい情報社会の構築を目指して自ら学び、情報社会の発展に主体的かつ創造的に取り組む態度を持とうとしている。まだ、学びの成果を客観的に自覚し、常に目標を設定しながら学習に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 (a)	思考・判断・表現 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・レポートやワークシート、提出課題などの内容の確認 ・発表における技能 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・授業中の発言、グループワークの状況 ・レポートやワークシート、提出課題 ・発表における表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組み、グループワークの状況 ・レポートやワークシート、提出課題などの内容の確認 ・発表における態度 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価方法
4・5月	第1章 情報社会と問題解決	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・情報に関する制度や法規、情報セキュリティの重要性、情報社会が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。	10	・確認テスト ・ワークシート ・レポート
6・7月	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。	12	・確認テスト ・ワークシート ・レポート ・発表
8・9月	第3章 情報のデジタル化とコンピュータ	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・コンピュータの基礎的な構造や知識、情報デジタル化について基礎的な知識や技能を身に付ける。	11	・確認テスト ・ワークシート ・レポート
10・11月	第4章 アルゴリズムとプログラミング	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価改善できるようにする。	14	・確認テスト ・ワークシート ・レポート ・発表
12・1月	第5章 ネットワークとセキュリティ	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素等について、仕組みと特徴を理解する。	12	・確認テスト ・ワークシート ・レポート
2・3月	第6章 データの活用とシミュレーション	・教科書 ・副教材 ・Web教材	・データを蓄積、管理、提供する方法や、データの整理、分析方法について理解し、技能を身に付ける。	11	・確認テスト ・ワークシート ・レポート

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

- ・確認テストを適宜実施します。
- ・レポートや作品製作など分野の内容に適した課題が設定されます。
- ・グループワーク、プレゼンテーションを実施します。

8 担当者からの一言

情報Ⅰにおいては、情報に関する科学的な見方・考え方を学び、情報技術を効果的に活用して問題の発見・解決を行い、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指します。ぜひ、積極的に学習に取り組んでください。